

II 令和元年度の「修学上の情報等」についての公表資料

1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績

1) 教員組織と学位（令和元年5月1日現在）

(1) 人間社会学部 国際観光学科 (33人) その他、助手0人 / ◎は人間社会学研究科 兼担

教授 (10人)		准教授 (12人)		講師 (7人)		助教 (4人)	
氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位
安部 直樹 (理事長)	修士 (経済学)	安部 雅隆	修士 (経営学) (MBA)	◎内田 智子	博士 (文学)	John Patrick Owatari-Dorgan	Master of Education
橋本 健夫 (副学長)	理学修士	乙須 翼	修士 (教育学)	◎川上 直彦	Doctor of Philosophy	中島 金太郎	博士 (歴史学)
◎池永 正人 (学部長) (研究科長) (地マネ専攻長)	博士 (学術)	尾場 均	工学士	柴田 あづさ	比較社会文化修士	宮本 彩	博士 (スポーツ健康科学)
◎板垣 朝之 (学科長)	法学士	小島 大輔	修士 (理学)	神野 周太郎	博士 (体育科学)	元嶋 菜美香	修士 (体育学)
◎滝 知則 (観光学専攻長)	Doctor of Philosophy in International Studies	◎城前 奈美	博士 (学術)	Brendan Van Deusen	Master of Arts in Teaching English as a Foreign Language		
井上 英也	学士 (法学)	新藤 照夫	修士 (文学)	松本 知子	修士 (文学)		
◎落合 知子	博士 (学術)	◎谷口 佳菜子	博士 (経済学)	森尾 真之	学士 (社会学)		
◎熊谷 賢哉	博士 (理学)	◎Thom W. Rawson	Masters of Education, Curriculum and Instruction				
嶋内 麻佐子	修士 (文学)	原 哲弘	工学士				
◎田中 誠	修士 (文学) Master of Education	◎三浦 知子	修士 (観光学)				
		宮良 俊行	修士 (体育学)				
		山内 美穂	博士 (学術)				

(2) 人間社会学部 社会福祉学科 (19人) その他、助手2人 / ◎は人間社会学研究科 兼任

教授 (4人)		准教授 (4人)		講師 (9人)		助教 (2人)	
氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位
◎木村 勝彦 (副学長)	博士 (文学)	◎大島 啓	博士 (文学)	安藤 佳珠子	社会学修士	斐 孝承	博士 (学術)
◎中村 龍文 (学科長)	医学博士	◎韓 榮芝	修士 (社会福祉学)	石橋 亜矢	修士 (看護学)	村上 広美	臨床心理修士 (専門職)
◎坂本 雅俊 (専攻長)	社会福祉学修士	◎柳 智盛	修士 (教育学)	浦 秀美	修士 (社会福祉学)		
◎高島 恭子	修士 (社会福祉学)	◎脇野 幸太郎	修士 (法学)	Virág Viktor	社会福祉学博士		
				金澤 由佳	修士 (社会福祉学)		
				◎種橋 征子	博士 (社会福祉学)		
				中村 美穂 (カウンセラー)	博士 (心理学)		
				野田 健	修士 (社会福祉学)		
				久田 貴幸	修士 (学術・福祉)		

(3) 健康管理学部 健康栄養学科 (16人) その他、助手9人 / ◎は健康管理学研究科 兼任

教授 (7人)		准教授 (3人)		講師 (6人)		助教 (0人)	
氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位
◎野村 秀一 (学部長) (研究科長)	保健学博士、博士 (医学)	◎林 俊介	博士 (医学)	小田 和人	修士 (健康管理学)		
◎熊井 まどか (学科長) (専攻長)	博士 (医学)	◎松尾 嘉代子	修士 (健康管理学)	◎川内 美樹	修士 (栄養学)		
◎今村 裕行	博士 (工学)	山口 留美	学士 (家政学)	川野 香織	修士 (健康管理学)		
◎岡本 美紀	修士 (食物栄養学)			藤井 俊輔	博士 (創薬科学)		
◎古賀 貴子	博士 (学術)			宮原 恵子	修士 (栄養科学)		
◎柴田 哲雄	医学博士			吉村 亮二	博士 (農学)		
◎水江 文香	修士 (健康管理学)						

(4) 薬学部 薬学科 (48人) その他、助手4人 / ◎は薬学研究科 兼任

教授 (23人)		准教授 (6人)		講師 (10人)		助教 (9人)	
氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位	氏名	学位
中島 憲一郎 (学長)	薬学博士	◎一木 裕子	博士 (臨床薬学)	◎神谷 誠太郎	博士 (薬学)	◎榎本 彩乃	博士 (工学)
安東 由喜雄 (副学長)	医学博士	◎宇都 拓洋	博士 (農学)	◎相田 美和	博士 (医学)	大神 正次	修士 (基礎薬学)
◎榊原 隆三 (学部長) (研究科長)	医学博士	◎太田 一寿	博士 (医学)	◎高崎 伸也	博士 (薬学)	◎太田 智絵	博士 (薬学)
◎小林 秀光 (学科長)	薬学博士	◎高井 伸彦	博士 (薬学)	◎田中 啓太郎	博士 (薬学)	末廣 真理恵	博士 (医学)
◎藤田 英明 (専攻長)	博士 (薬学)	◎田中 宏光	博士 (薬学)	◎出口 雄也	博士 (食品栄養科学)	中島 健輔	博士 (薬学)
◎岸原 健二 (図書館長)	医学博士	◎西奥 剛	博士 (学術)	◎縄田 陽子	博士 (薬学)	中村 沙織	博士 (薬学)
◎市川 和洋	博士 (工学)			◎藤井 佑樹	博士 (理学)	波多江 日成子	修士 (保健学)
◎大磯 茂	博士 (医学)			◎藤木 司	博士 (農学)	◎福森 良	博士 (薬学)
◎大庭 義史	博士 (薬学)			◎藤本 京子	博士 (農学)	松下 博昭	博士 (医学)
◎小川 由起子	博士 (薬学)			◎吉田 達貞	博士 (薬学)		
◎枕島 力	博士 (薬学)						
◎反屋菌 博子	博士 (薬学)						
◎隈 博幸	博士 (医学)						
◎黒川 健児	博士 (薬学)						
◎佐藤 博	博士 (薬学)						
◎長岡 寛明	博士 (薬学)						
◎深澤 昌史	農学博士						
◎藤原 俊幸	博士 (医学)						
◎山口 拓	博士 (薬学)						
◎山口 辰哉	医学博士						
◎山口 泰史	薬学博士						
◎淀 光昭	薬学博士						
◎和田 守正	理学博士						

2) 業績

本学公式サイト上で以下を公開しています。

- NIU 教員データベース <http://www1.niu.ac.jp/about/teacher.html>

2. 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

1) 入学者に関する受入方針

<長崎国際大学のアドミッション・ポリシー（本学が受け入れ、教育したいと考えている入学者像）>

本学は理念に掲げる人物を育成するために、本学の教育方針を理解し、それを素直に受け入れて主体的に学修を進めることができる次のような入学者を求めています。

- ① 高等学校の履修内容を幅広く獲得している人。ただし、学科によっては特に深い習得を求められる分野が加わります。
- ② 高等学校までの知識・技能を活用して、学校内外の課題解決活動に取り組んだ経験がある人。
- ③ ボランティア活動等を通して、社会的な課題に取り組んだ経験がある人。
- ④ 日本文化や書物から多くの学びを得た人、あるいはその学びを身に付けたいと考えている人。
- ⑤ 学びたい学部・学科があり、そこで獲得した能力・態度を社会で生かしたいと考えている人。
- ⑥ 大学での履修を円滑に進めるために、自己の不足する能力の向上に入学前から取り組むことができる人。

<学部のアドミッション・ポリシー>

【人間社会学部 国際観光学科】 アドミッション・ポリシー（本学科が受け入れ、教育したいと考えている入学者像）

本学科では、本学の理念に掲げる人物を育成するために、本学の教育方針を理解し、それを受け入れ、主体的に学修を進めることができる次のような入学者を求めています。

- ① 高等学校の履修内容を幅広く獲得している人。このために本学科では、入学者選抜試験の学力検査として「学生募集要項」に記載している科目を用います。
- ② 高等学校までの知識・技能を活用して、学内外の課題解決に取り組んだ経験がある人。
- ③ スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等を通して学校内外での社会的な課題に取り組んだ経験がある人。
- ④ 日本文化や書物から多くの学びを得た人、あるいはその学びを身に付けたいと考えている人。
- ⑤ 国際観光学科の学びである観光産業・事業、国際交流、スポーツによる地域貢献、まちづくり等に関心があり、そこで獲得した能力・態度を社会で生かしたいという強い希望を持っている人。
- ⑥ 大学での履修を円滑に進めるために、自己の不足する能力の向上に、入学前から取り組むことができる人。

【人間社会学部 社会福祉学科】 アドミッション・ポリシー（本学科が受け入れ、教育したいと考えている入学者像）

本学科では、大学アドミッション・ポリシーを基本精神として踏まえた上で、本学科のディプロマ・ポリシーに掲げる人物を育成するために、教育方針を理解し、主体的に学修を進めることができる入学者を求めています。

- ① 高等学校の履修内容を幅広く獲得している人。このために本学科では、入学者選抜試験の学力検査として「学生募集要項」に記載している科目を用います。
- ② 学級活動、部活動、ボランティア活動、スポーツ活動などを通じて、周囲の大人や友人と協力して課題に取り組んだ経験のある人。
- ③ 学習意欲について、本学科で開講する社会福祉やその関連領域において、自分の専門基盤を作る勉強がしたい人。
- ④ 未来の夢について、福祉関連機関、民間企業や公務員を目指すなど、しっかりと将来設計を考えている人。
- ⑤ 短大や専門学校からの編入学、他の学問領域からの転向を希望する人。
- ⑥ 社会人入学を広く受け入れます。社会経験を、国際社会、及び地域社会の活性化に向けて、将来、活かしたい人。
- ⑦ 大学での履修を円滑に進めるために、自己の不足する能力の向上に、入学前から取り組むことができる人。

【健康管理学部 健康栄養学科】アドミッション・ポリシー（本学科が受け入れ、教育したいと考えている入学者像）

本学科では、本学の理念に掲げる人物を育成するために、本学の教育方針を理解し、それを素直に受け入れて主体的に学修を進めることができる次のような入学者を求めます。

- ① 高等学校の履修内容を幅広く獲得している人。このために本学科では、入学者選抜試験の学力検査として「学生募集要項」に記載している科目を用います。
- ② 高等学校までの知識・技能を活用して課題解決を行った経験がある人。
- ③ ボランティア活動等を通して学校内外で社会的な課題に取り組んだ経験のある人。
- ④ 自己の不足する能力向上のために、入学前から粘り強く取り組むことができ、失敗に屈せず、自分を成長させようとする人。
- ⑤ 食や健康に関する出来事やそれらに関わる専門職に興味があり、大学で得た能力・態度を社会で生かし管理栄養士として活動したいという強い希望を持っている人。

【薬学部 薬学科】アドミッション・ポリシー（本学科が受け入れ、教育したいと考えている入学者像）

本学科は、本学の基本理念である「人間尊重」を理解する医療人（薬剤師）を育成するために、本学の教育方針を理解し、将来医療に従事する者として非喫煙を含め自らの健康に留意するとともに、主体的に学修を進めることができる学生を求めています。

また、入学後の学修において、化学系薬学、生物系薬学、物理系薬学の3つが基礎的な分野となることから、「化学」、「生物」、「物理」の基礎をしっかりと学習しておくことが重要です。したがって、大学での履修を円滑にするために、学力の維持または向上に入学前から取り組む必要が有ります。

- ① 高等学校の履修内容を幅広く、積極的に学習している人。このために本学科では、入学者選抜試験の学力検査として「学生募集要項」に記載している科目を用います。
- ② 他者への思いやりを持ち、ボランティア活動や課外活動等を通して社会に奉仕することができる人。
- ③ 社会においては、まわりの意見に耳を傾け、協調して行動できる人。
- ④ 進歩著しい医療の世界に必要な絶えず学び続ける強い意志と向上心を持っている人。
- ⑤ 地域医療に貢献することに関心や意欲を持っている人。
- ⑥ 大学で獲得した知識や能力を医療の発展に活かしたいと考えている人。

<大学院のアドミッション・ポリシー>

【人間社会学研究科 観光学専攻（修士課程）】アドミッション・ポリシー

観光学専攻では、広く次のような人材を求めています。

- ・観光開発と観光産業の担い手となる高度専門職業人や研究者を目指す人。
- ・国際社会や地域社会のリーダーとして専門能力を発揮するという強い意思を持った人。
- ・観光産業やまちづくりに関連する理論と実践の専門能力を身につけたい人。

【人間社会学研究科 社会福祉学専攻（修士課程）】アドミッション・ポリシー

社会福祉学専攻では、広く次のような人材を求めています。

- ・高度な研究を継続してこれからの社会福祉実践をリードできる福祉専門職者を目指す人
- ・人間尊重の理念を基礎とし高いレベルのソーシャルワークの知識、技術を修得したい人。

【人間社会学研究科 地域マネジメント専攻（博士後期課程）】アドミッション・ポリシー

地域マネジメント専攻では、広く次のような人材を求めています。

- ・新しいまちづくりのリーダーを目指す人。
- ・観光関連施設や社会福祉関連事業の経営・運営者を目指す人
- ・地域マネジメントに関する理論と実践を求められる公務員を目指す人。
- ・地域マネジメントに実効性のあるサポートを行うことのできる研究者を目指す人。

【健康管理学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）】アドミッション・ポリシー

健康栄養学専攻では、広く次のような人材を求めています。

- ・栄養学および関連領域を基礎とした人間の健康管理に関する知識と技能を修得し、社会に貢献できる高度専門職業人や教育者・研究者を目指す人。
- ・人間尊重の理念を基礎とし、栄養学および関連領域を基礎とした人間の健康管理に関する高度な実践力を修得したい人。

【薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）】アドミッション・ポリシー

医療薬学専攻では、広く次のような人材を求めています。

- ・深い専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や評価能力などを身につけることができる人材。
- ・高度な知識と研究能力を礎として薬学がカバーすべき広範な基礎及び臨床科学の諸分野をリードし、将来にわたり地域社会と国際社会に貢献することを目指す人材。
- ・高度化医療、医療行政、育薬などの職域で実践的な研究能力を有する優れた先導的医療系薬学研究者（在宅医療研究者、がん・疼痛緩和研究者、処方設計研究者、予防薬学研究者、医療行政研究者）を目指す人材。

2) 入学者数 (令和元年5月1日現在)

(1) 令和元年度春季入学者 (学部)

学部	学科		入試の種類								
			一般入試	センター入試	AO入試	附属校推薦	指定校推薦	公募推薦入試	その他の推薦入試	その他(社会人・留学生等を含む)	計
人間社会学部	国際観光学科	募集定員	50	20	10	5	15	15	25	35	175
		入学者数	32	27	45	14	36	10	35	24	223
	社会福祉学科	募集定員	25	15	5	5	10	15	5	0	80
		入学者数	8	6	12	4	14	8	15	5	72
合計		募集定員	75	35	15	10	25	30	30	35	255
		入学者数	40	33	57	18	50	18	50	29	295
健康管理学部	健康栄養学科	募集定員	35	15	—	0	5	25	0	0	80
		入学者数	22	7	—	6	16	22	0	1	74
合計		募集定員	35	15	—	0	5	25	0	0	80
		入学者数	22	7	—	6	16	22	0	1	74
薬学部	薬学科	募集定員	55	25	5	0	5	30	—	0	120
		入学者数	77	21	0	0	7	12	—	6	123
合計		募集定員	55	25	5	0	5	30	—	0	120
		入学者数	77	21	0	0	7	12	—	6	123

(2) 平成30年度秋季入学者 (学部)

学部	学科		入試の種類							
			一般入試	センター入試	AO入試	附属校推薦	指定校推薦	公募推薦入試	その他(社会人・留学生等を含む)	計
人間社会学部	国際観光学科	募集定員	—	—	0	—	—	—	5	5
		入学者数	—	—	0	—	—	—	6	6
合計		募集定員	—	—	0	—	—	—	5	5
		入学者数	—	—	0	—	—	—	6	6

(3) 令和元年度春季編入学者（学部）

学部	学科		入試の種類						
			2年次編入学	2年次編入学 AO入試	3年次編入学 (相当年次 編入学含む)	3年次編入学 AO入試	3年次編入学 指定校推薦	4年次編入学	計
人間社会学部	国際観光学科	募集定員	0	—	20	0	0	—	20
		入学者数	0	—	7	0	24	—	31
	社会福祉学科	募集定員	0	—	10	0	0	—	10
		入学者数	0	—	0	0	0	—	0
合計		募集定員	0	—	30	0	0	—	30
		入学者数	0	—	7	0	24	—	31
健康管理学部	健康栄養学科	募集定員	—	—	10	—	0	—	10
		入学者数	—	—	3	—	2	—	5
合計		募集定員	—	—	10	—	0	—	10
		入学者数	—	—	3	—	2	—	5
薬学部	薬学科	募集定員	0	—	0	—	—	0	0
		入学者数	0	—	1	—	—	1	2
合計		募集定員	0	—	0	—	—	0	0
		入学者数	0	—	1	—	—	1	2

※ 募集定員は、全ての入試の種類および秋季入学の募集定員を含む40人である。

(4) 平成30年度秋季編入学者（学部）

学部	学科		入試の種類				
			2年次編入学	3年次編入学	3年次編入学 AO入試	3年次編入学 指定校推薦	計
人間社会学部	国際観光学科	募集定員	0	20	0	—	20
		入学者数	2	14	0	—	16
合計		募集定員	0	20	0	—	20
		入学者数	2	14	0	—	16

※ 募集定員は、全ての入試の種類および春季入学の募集定員を含む20人である。

(5) 令和元年度春季入学者（大学院）

課程	研究科	専攻	入学者数の合計	一般	社会人	留学生	備考
修士課程	人間社会学研究科	観光学専攻	4	1	1	2	
		社会福祉学専攻	3	1	1	2*	※留学生1名は社会人と重複
	健康管理学研究科	健康栄養学専攻	1	0	1	0	
	合計		8	2	3	4*	※留学生1名は社会人と重複
博士後期課程	人間社会学研究科	地域マネジメント専攻	1	0	1	0	
	合計		1	0	1	0	
博士課程	薬学研究科	医療薬学専攻	1	0	1	0	
	合計		1	0	1	0	

※ 社会人は経常的な収入を得る仕事に就いている者、既に退職した者、主婦・主夫を対象とする。

※ 留学生は留学ビザがある学生とする。

(6) 平成30年度秋季入学者（大学院）

課程	研究科	専攻	入学者数の合計	一般	社会人	留学生	備考
修士課程	人間社会学研究科	観光学専攻	1	0	1	1	※留学生1名は社会人と重複
		社会福祉学専攻	0	0	0	0	
	合計		1	0	1	1	※留学生1名は社会人と重複
博士後期課程	人間社会学研究科	地域マネジメント専攻	0	0	0	0	
	合計		0	0	0	0	

3) 収容定員と学生数（令和元年5月1日現在）

(1) 学部

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生総数	学年別在籍学生数					
						1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
人間社会学部	国際観光学科	180	20	760	980	229	238	246	267		
	社会福祉学科	80	10	340	272	72	56	76	68		
人間社会学部計		260	30	1,100	1,252	301	294	322	335		
健康管理学部	健康栄養学科	80	10	340	331	74	95	81	81		
健康管理学部計		80	10	340	331	74	95	81	81		
薬学部	薬学科	120	0	720	739	129	128	112	117	127	126
薬学部計		120	0	720	739	129	128	112	117	127	126
合 計		460	40	2,160	2,322	504	517	515	533	127	126

※ 編入学定員は3年次編入学の定員である。

(2) 大学院

研究科	専攻	入学定員		収容定員		在籍学生数								備 考
		修士課程	博士課程	修士課程	博士課程	修士課程				博士課程				
						一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人間社会学研究科	観光学専攻	10	—	20	—	5	2	4*	10	—	—	—	—	※留学生のうち1名は社会人と重複
	社会福祉学専攻	10	—	20	—	1	2	2*	4	—	—	—	—	※留学生のうち1名は社会人と重複
	地域マネジメント専攻	—	3	—	9	—	—	—	—	0	4	1*	4	※留学生1名は社会人と重複
人間社会学研究科計		20	3	40	9	6	4	6*	14	0	4	1*	4	※留学生内訳は上記参照
健康管理学研究科	健康栄養学専攻	4	—	8	—	1	4	—	5	—	—	—	—	
健康管理学研究科計		4	—	8	—	1	4	—	5	—	—	—	—	
薬学研究科	医療薬学専攻	—	3	—	12	—	—	—	—	1	8	0	9	
薬学研究科計		—	3	—	12	—	—	—	—	1	8	0	9	
合 計		24	6	48	21	7	8	6*	19	1	12	1*	13	※留学生内訳は上記参照

※ 社会人は経常的な収入を得る仕事に就いている者、既に退職した者、主婦・主夫を対象とする。

※ 留学生は留学ビザがある学生とする。

4) 卒業生数・修了者数・就職者数・進学者数（平成30年度卒業・修了者（秋季卒業・修了者を含む） 令和元年5月1日現在）

(1) 学部

学部	学科	卒業生数	就職者数	進学者数
人間社会学部	国際観光学科	205	152	8
	社会福祉学科	49	41	3
人間社会学部計		254	193	11
健康管理学部	健康栄養学科	78	76	2
健康管理学部計		78	76	2
薬学部	薬学科	102	89	1
薬学部計		102	89	1
合 計		434	358	14

※ 進学者には専修学校・外国の学校等入学者を含む。

(2) 大学院

課程	研究科	専攻	修了者数	就職者数	進学者数	単位取得 満期退学者数	備 考
修士課程	人間社会学研究科	観光学専攻	1	0	0	—	
		社会福祉学専攻	3	3	0	—	
	人間社会学研究科計		4	3	0	—	
	健康管理学研究科	健康栄養学専攻	3	3	0	—	
	健康管理学研究科計		3	3	0	—	
合 計			7	6	0	—	
博士後期課程	人間社会学研究科	地域マネジメント専攻	0	0	0	0	
	人間社会学研究科計		0	0	0	0	
合 計			0	0	0	0	
博士課程	薬学研究科	医療薬学専攻	2	2	0	0	
	薬学研究科計		2	2	0	0	
合 計			2	2	0	0	

3. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

本学公式サイト上で以下を公開しています。

- カリキュラム
- シラバス

1) 学部

〔全学共通科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/about/features/curriculum.html>

【トップページ】 > 【大学総合】 > 【学びの特色】 > 【全学共通カリキュラム】 > 【全学共通科目シラバス】 > 【(各科目名)】

〔専門科目〕

【トップページ】 > 【学部学科】 > 【(各学科)】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各学科専門科目シラバス)】 > 【(各科目名)】

- 国際観光学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/international-tourism/curriculum/>
- 社会福祉学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/social-welfare/curriculum/>
- 健康栄養学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/health-nutrition/curriculum/>
- 薬学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/pharmacy/curriculum/>

〔教職科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/course/teacher-training/curriculum.html>

【トップページ】 > 【学部学科】 > 【教職課程】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各科目名)】

2) 大学院

〔専門科目〕

【トップページ】 > 【大学院】 > 【(各研究科)】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各研究科専門科目シラバス)】 > 【(各科目名)】

- 人間社会学研究科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/human-and-social-studies/curriculum/>
- 健康管理学研究科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/health-management/curriculum/>
- 薬学研究科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/pharmacy/curriculum/>

〔教職科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/teacher-training/curriculum.html>

【トップページ】 > 【大学院】 > 【教職課程】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各科目名)】

4. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）

1) 長崎国際大学アセスメント・ポリシー

アセスメント・ポリシーは学生の学修成果の評価について、本学が、その目的、達成すべき質的水準、評価の具体的実施方法などについて定めた学内の方針です。

教育成果を可視化し、教育改善を実施する目的で、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を踏まえて、教育課程や学生の学修成果を測定・評価します。

<アセスメント・ポリシー（学修成果の評価に関する方針）>

どのような時代にあっても、学位授与の方針で求められる能力・態度が確実に獲得することができる教育を提供するために、自己評価と外部評価を実施し、その結果を公表します。

1 大学レベル

学生及び教職員を対象とした直接的あるいは間接的な調査、及びステークホルダーである企業等を対象とした調査等を集計・分析し、理念の達成度等の評価を行います。修正の必要がある場合は、すぐに改善に取りかかります。

2 学科レベル

所属する学生の単位修得状況、進級状況、休学・退学状況及び学生による授業評価等によって、学科で掲げた目標の達成度を評価し、不足がある場合は改善を加えます。

3 科目レベル

それぞれの科目で設定した目標を達成しているかどうかについては、「成績評価」、「成績分布データ」、「授業アンケート」等を組み合わせ、分析・評価します。また、授業を重ねる中で、受講者からの意見を聴取し授業改善等につなげます。

4 学生レベル

理念に掲げる能力・態度の獲得については、学期毎にそれぞれのルーブリックをもとに学生が行った省察と自己評価を、担任の教員が点検評価し、改善に向けた適切な助言を行います。この4年間あるいは6年間のポートフォリオを踏まえて、学生はディプロマ・ポリシーで求められている能力の獲得状況等を、卒業ポートフォリオに記載します。

学位授与にあたっては、一定水準以上の卒業論文であることや、ディプロマ・ポリシーで求めている各能力が獲得されていることが問われますが、ともに外部の専門家あるいはステークホルダーが参加した委員会等で、その評価を行います。

2) 成績評価基準

(1) 学部

評価	評点	評価基準	
合格	S	100～90点	到達目標を十分達成し、きわめて優秀な成績を修めている。
	A	89～80点	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70点	到達目標を達成している。
	C	69～60点	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59点以下	到達目標を達成していない。
	F	出席不良・受験放棄	出席・試験（レポート等の提出）の評価要件を欠格。

(2) 大学院

評価	評点	評価基準	
合格	S	100～90点	到達目標を十分達成し、きわめて優秀な成績を修めている。
	A	89～80点	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70点	到達目標を達成している。
	C	69～60点	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59点以下	到達目標を達成していない。
	F	出席不良・受験放棄	出席・試験（レポート等の提出）の評価要件を欠格。

3) GPA 制度

長崎国際大学では、学生個人の学修到達度を評価するために、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。GPA制度は、学生の自己学習力及び勉学意欲を高めるとともに、本学の教育の質保証に向けた必要な方策を具体化し、学生に対する適切な学修支援に資することを目的に導入しています。

【GPAの算出方法】

登録した各科目の成績 (グレードポイント) にその科目の単位数を乗じた数値の総和を総登録単位数で除して算出し、小数点第2位まで表記しています。

評価	評点	グレードポイント	評価基準	
合格	S	100～90点	4.0	到達目標を十分達成し、きわめて優秀な成績を修めている。
	A	89～80点	3.0	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70点	2.0	到達目標を達成している。
	C	69～60点	1.0	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59点以下	0	到達目標を達成していない。
	F	出席不良・受験放棄		出席・試験 (レポート等の提出) の評価要件を欠格。

【GPAの計算式】

GPAは次の各号により算出し小数点第2位まで表記するものとする (小数点第3位は四捨五入)。

(1) 学期GPAの計算式

$$\text{学期GPA} = \{ (\text{当該学期の評価Sの単位数合計} \times 4.0) + (\text{当該学期の評価Aの単位数合計} \times 3.0) + (\text{当該学期の評価Bの単位数合計} \times 2.0) + (\text{当該学期の評価Cの単位数合計} \times 1.0) \} \div \text{当該学期の総履修登録単位数}$$

(2) 年度GPAの計算式

$$\text{年度GPA} = \{ (\text{当該年度の評価Sの単位数合計} \times 4.0) + (\text{当該年度の評価Aの単位数合計} \times 3.0) + (\text{当該年度の評価Bの単位数合計} \times 2.0) + (\text{当該年度の評価Cの単位数合計} \times 1.0) \} \div \text{当該年度の総履修登録単位数}$$

<履修単位数の上限とGPAの活用>

- ・年間のGPAが、本学が定めるGPAを上回った場合には、次年度、履修登録単位数の上限を超えて履修登録することができます。
- ・当該年度のGPAが1.5未満の成績不振学生は、担当教員が指導を行い、修得単位の改善を図ります。また、教員が必要と認めた場合は、履修登録計画表を作成し、個々の単位のレベルアップを図るようにします。
- ・GPAは、学生に対する日々の学修支援のほか、次のとおり退学勧告、教職課程における履修辞退の警告及び勧告等、本学の教育の質的向上に関わる事項において活用しています。
 - (1) 退学勧告 (半期ごとのGPAにおいて1.0未満の学期が3期連続し、学業に対する熱意を欠き、成業の見込みがないと判定された学生に対して、学長は退学を勧告することができる。)
 - (2) 教職課程における履修辞退勧告 (教職課程科目履修者に対して、「長崎国際大学教育職員免許状取得に関する規程」に則って、履修辞退を警告もしくは勧告するものとする。)
 - (3) 授業料減免対象者選考

4) 卒業又は修了認定基準

(1) 人間社会学部 国際観光学科の卒業に要する最低修得単位数

	全学共通科目群					学部共通科目	学科専門科目群			卒業に要する最低修得単位数
	導入	人間理解	国際理解	社会理解	自然理解		学科共通	各コース及び全コース	専門演習等	
必修単位数	4	8	8	8	4	4	30	40	10	124
自由選択単位数	本学に開講されている全領域の科目及び単位互換認定科目から8単位選択									

(2) 人間社会学部 社会福祉学科の卒業に要する最低修得単位数

	全学共通科目群					学部共通科目	学科専門科目群		卒業に要する最低修得単位数
	導入	人間理解	国際理解	社会理解	自然理解		基幹	展開	
必修単位数	4	6	8	10	4	4	50	20	124
自由選択単位数	本学に開講されている全領域の科目及び単位互換認定科目から8単位選択								

(3) 健康管理学部 健康栄養学科の卒業に要する最低修得単位数

	全学共通科目群						学科専門科目群			卒業に要する最低修得単位数
	導入	人間理解	国際理解	社会理解	自然理解	区分自由	基礎	基幹	関連	
必修単位数	4	4	6	4	6	4	40	46	8	126
自由選択単位数	本学に開講されている全領域の科目及び単位互換認定科目から4単位選択									

(4) 薬学部 薬学科の卒業に要する最低修得単位数

科目区分		必修	選択必修	選択		
全学 共通 科目	導入	4	0	0		
	人間理解	4	0	2		
	国際理解	0	4	2		
	社会理解	2	0	2		
	自然理解	2	6	2		
	全学共通科目計		12	10	8	
30 単位						
学科 専門 科目	基本事項		2.5	0	0	
	薬学基礎	物理系薬学	17.0	0	5.5 注1)	
		化学系薬学	13.5	1.5		
		生物系薬学	20.0	0		
	衛生薬学		11.5	1.5 注2)		
	医療薬学		29.5	0		
	薬学臨床		12.0	1.5 注2)		
	総合	事前学習		13.0	0	0
		実務実習 (病院・薬局)		20.0	0	0
		総合基礎学習Ⅰ		0.5	0	0
		総合基礎学習Ⅱ		0.5	0	0
		総合演習Ⅰ		3.0	0	0
		総合演習Ⅱ		1.5	0	0
	総合演習ⅢA		1.5	0	0	
	総合演習ⅢB		2.0	0	0	
	卒業研究		6.0	0	0	
学科専門科目計		154.0	3.0	5.5		
162.5 単位						
合計 (卒業に要する最低修得単位)		166.0	13.0	13.5		
		192.5 単位				

注1) 選択履修科目 5.5 単位のうち、2 単位まで単位互換制度 (NICE キャンパス長崎) において修得した単位を認定する。

注2) 衛生薬学、臨床薬学の一般専門科目の中から修得する。

(5) 人間社会学研究科の修了に要する最低修得単位数

専攻 \ 項目	必修科目	選択必修科目	選択科目	計
観光学専攻	8	8	14	30
社会福祉学専攻	8	8	14	30
地域マネジメント専攻	16	—	8	24

(6) 健康管理学研究科の修了に要する最低修得単位数

専攻 \ 項目	必修科目	選択必修科目	選択科目	計
健康栄養学専攻	10	4	16	30

(7) 薬学研究科の修了に要する最低修得単位数

専攻 \ 項目	必修科目	選択科目	計
医療薬学専攻	12	20	32

5) 取得可能学位

(1) 学部

学部名	学科名	学位の名称	学位の分野区分※
人間社会学部	国際観光学科	学士 (観光学) Bachelor of International Tourism	社会学・社会福祉学関係
	社会福祉学科	学士 (社会福祉学) Bachelor of Social Work	社会学・社会福祉学関係
健康管理学部	健康栄養学科	学士 (栄養学) Bachelor of Health and Nutrition	家政関係
薬学部	薬学科	学士 (薬学) Bachelor of Pharmacy	薬学関係

※「学位の種類及び分野の変更等に関する基準」による。

(2) 大学院

研究科名	専攻名	学位の名称	学位の分野区分※
人間社会学研究科	観光学専攻	修士 (観光学) Master of Tourism	社会学・社会福祉学関係
	社会福祉学専攻	修士 (社会福祉学) Master of Social Work	社会学・社会福祉学関係
	地域マネジメント専攻	博士 (地域マネジメント) Doctor of Philosophy in Regional Management	社会学・社会福祉学関係
健康管理学研究科	健康栄養学専攻	修士 (健康管理学) Master of Health and Nutrition	家政関係
薬学研究科	医療薬学専攻	博士 (薬学) Doctor of Pharmaceutical Sciences	薬学関係

※「学位の種類及び分野の変更等に関する基準」による。

5. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援（令和元年5月1日現在）

1) 学生の修学に係る支援

(1) 取扱部署：教務課

(2) 取扱時間：日・祝祭日を除く平日 8：30～16：30 / 土曜日 8：30～13：00

(3) 取扱事項：

- 履修に関する事項
- 試験に関する事項
- 成績に関する事項
- 免許・資格取得に関する事項
- 成績・卒業見込・資格取得見込証明書の発行
- 各種届受付（教務関係）

出席管理システム	出席管理システムは、教室にあるICカードリーダーにIC機能付き学生証をタッチすることで出欠をとることができるシステムです。担当教員は、随時、担当学生の出席状況を確認することができます。さらに、保護者の方は、家庭からシステムにアクセスすることによって、学生の出席状況を確認できます。
読書管理システム	学生の100冊読書を支援するシステムです。卒業後の社会で活躍する際には、社会で流れる多くの情報の真偽を見極め、有用な情報を収集、分析し、課題解決に向けて組み立て、どのように行動していけばよいか素早く判断する能力が無くてはなりません。そのため、本学ディプロマ・ポリシーには、書物からの学びによって静かに考え、一歩先を読む態度により、これからの変化の激しい社会に対応できる人材の育成を掲げています。 「読んだ本」を読書管理システムに登録することで、これまで読んだ本の冊数、ページ数等がグラフで表示されるとともに、読書後の感想を含んだコメントや読書時期が読書ヒストリーとして表示されます。また、他の人が読んだ本の感想も見ることができるとともに、教員からのコメントも確認できます。
ループリック評価	長崎国際大学のディプロマ・ポリシーは、「人間尊重」を基本理念に、「ホスピタリティの獲得」を掲げています。その中で、ホスピタリティの具体像として、次の5つの能力を挙げています。 (1) 専門力 (2) 情報収集力、分析力 (3) コミュニケーション力 (4) 協働・問題解決力 (5) 多様性理解力 1年に2回（前期と後期）、学生は、自己の成長を診るためにホスピタリティ・ループリックによって、自己評価を行います。次に、この自己評価とともに、担当教員との面談を行い、自己評価の妥当性を確認し、最終評価を入力します。 このように、自己評価と担当教員との面談を組み合わせることによって、学生一人ひとりの長所を伸ばし、短所を修正するための的確な学修支援が可能となっています。
面談システム	担当教員は、学生との面談後、面談結果を面談システムに入力し、次年度以降の担当教員に引き継ぎます。これによって、教員間の情報共有が可能となります。
TA・SA制度	授業の補助業務のほか、学生個人の学修支援対策として制度化しており、TA・SAに対しては研修も実施しています。
ラーニング・コモンズ	学内4か所に設けています。学生の皆さんは、自由に利用でき、自主学修の場となっています。プレゼンテーションやディスカッションのために、電子黒板や可動式の机やイスも配置し、パソコンの貸し出しも行っています。これは、主体的な学修支援の一環と位置付けています。

2) 学生の進路選択に係る支援

(1) 取扱部署：キャリアセンター

(2) 取扱時間：日・祝祭日を除く平日 8:30～17:00 / 土曜日 8:30～13:00

(3) 取扱事項：

- キャリア教育、キャリア及び進路支援全般に関する事項
- 進路（就職・進学等）に関する事項
- 資格取得及び公務員試験等の特別講座に関する事項

3) 海外留学及び留学生に係る支援

(1) 取扱部署：国際交流・留学生支援センター

(2) 取扱時間：日・祝祭日を除く平日 8:30～16:30 / 土曜日 8:30～13:00

(3) 取扱事項：

- 国際交流・留学に関する事項
- 留学生の生活相談に関する事項
- 留学生の奨学金、アルバイト、アパート及び在留手続き等に関する事項

4) 学生の心身の健康等に係る支援

(1) 取扱部署：キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター

(2) 取扱時間・取扱事項：

- キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター<学生相談室>
心理相談、こころの健康調査（UPI）、NIU ランチアワーなど、専門のカウンセラーが心理カウンセリングを行います。
◆ 毎週月～金曜日 10:00～17:00 ※長期休暇中（夏休みなど）は、変則となります。
- キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター<保健室>
心身の健康上の問題などの相談を受けています。また、熱中症対策講習会やAED講習会を実施しています。
◆ 毎週月～金曜日 8:30～17:00
- キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター<学生生活サポート室>
修学や学生生活で困っていること、サポートしてほしいことの相談を受けています。
◆ 毎週月～金曜日 ①12:20～13:00、②16:30～17:20（水曜②は大学院生が担当し、14:40～15:40）
- 教員によるオフィスアワー（月～金曜日 時間帯は各教員による）

5) 修学上の配慮に関する支援

本学では、障がいの有無に関わらず、すべての学生が、有意義な学生生活を送れるよう、質の高い教育を受ける機会を保証しています。その実現を目指し、個々の学生の教育的ニーズに応じた様々な支援の提供をするために、全教職員が配慮申請された学生の支援に関する情報を共有し、組織的かつ総合的な学生支援の体制づくりに取り組んでいます。

したがって、本学のすべての学生は、必要に応じて大学に対し修学上の配慮の申請を行うことができます。

申請の具体的手続きについては、以下本学公式サイトをご覧ください。

○ 修学上の配慮に関する申請手続き <http://www1.niu.ac.jp/life/counseling/>

6) 障がいのある学生に係る支援

- 修学に関する各種相談等：キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター
- 学生によるピア・サポート*を実施しています。*ピア・サポート (Peer Support) とは、学生同士 (Peer) で、お互いに思いやり・助け合い・支え合う人間関係を通して行うサポート (Support) のことです。
- 障がい学生修学支援費の支給申請の手続き：キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター
- 就職に関する各種相談等：キャリアセンター
※ 各窓口では電話やメールによる相談も受け付けています。
- 設備：点字付エレベーター、スロープ、点字ブロック、多目的トイレ (介護用ベッド、ウォシュレット付)、車いす、拡大読書器、車いす利用者用特別昇降機、車いす用リフト、教壇昇降用スロープ、車いす用通学路、障がい者用屋根付き駐車場等
- 長崎国際大学ピア・サポート学生組織の学生達が作製した、「長崎国際大学 バリアフリーマップ」があります。

6. 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

1) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、履修モデル等

(1) 長崎国際大学

<ディプロマ・ポリシー（本学の学位授与の方針）>

長崎国際大学（以下本学という）は、「人間尊重」を基本理念に、「ホスピタリティの獲得」をその具体像としています。必須単位数等を定めた学士課程カリキュラムを履修することによって、身に付けた深い専門的知識と高い技能、及び社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行って、地域社会及び国際社会に貢献することができる人物の育成が目的です。また、この基盤には高い人間性が存在します。伝統文化や書物からの学びによって、静かに考え、一歩先を読む態度を育成することが、変化の激しい社会の中であって、人間性をより豊かにすると考えています。

この実現のために、所定の単位数を修得し、ホスピタリティを構成する次の諸能力を身に付け活用することができる人物に学位を授与します。

(1) 専門力

学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができる。

(2) 情報収集、分析力

社会に存在する情報を収集し、それを分析して自己の成長や課題解決等に役立てることができる。

(3) コミュニケーション力

他の人の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、静かに意見を交換し、相互理解を図ることができる。

(4) 協働・課題解決力

課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。

(5) 多様性理解力

自国の文化を深く理解するとともに他国の文化や障がいを持った人々を広く受け入れ、共生に向けた行動がとれる。

<カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成方針）>

本学は、卒業認定及び学位授与の方針に掲げた知識・技能を始めとした諸能力の獲得を可能にするために、初年次教育、教養教育、及び専門教育の授業科目の順次性を考慮して体系的に配置するとともに、講義や実習等を効果的に組み合わせたカリキュラムを編成します。さらに、その構造を理解しやすくするために、各授業科目が学士課程カリキュラムでどのような位置を占めるかを示し（カリキュラムマップという）、さらに学修段階や履修順序を示す番号を各授業科目に割り振ります（ナンバリングという）。

A. 教育内容

○ 初年次教育

4年間あるいは6年間の学修の基盤となる資質（大学理念の理解、アクティブ・ラーニングの理解、大学での学修習慣の形成、省察の意味やポートフォリオ活用の理解等）の修得を行う場であり、「茶道文化」、「ホスピタリティ概論」及び「教養セミナー」という授業科目が核になります。

○ 教養教育

① ここでは、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の基礎を培う授業科目が展開されます。特に、主体的に考え、判断し、表現する能力・態度の修得に必要な内容や方法が組み込まれています。

② 語学教育の英語科目では、習熟度に基づくクラス編成での授業を行い、英語運用能力の着実な伸張を図ります。

③ ITに関する科目においては、時代とともに進化する状況を踏まえて、最新のハード及びソフトの理解や活用を可能にします。

○ 専門教育

① 学科及びコースごとに専門分野の体系と最新の知見を踏まえた適切な内容を講義や実習等に組み込んでいます。ディプロマ・ポリシーで掲げる専門力向上の主な場となります。

② 大学内で獲得した能力・態度を統合して活用するとともに、将来のキャリアと結びつけての省察を可能にする体験実習（ハイ・インパクト・プラクティス）を行います。

B. 教育方法

アクティブ・ラーニングを全授業科目で展開するとともに、その成果を生かす実習を組み込み、毎日の授業をディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の形成につなげます。

また、学生一人ひとりに対して担任となる教員を決め、ポートフォリオを活用した面談を行うことによって、それぞれの長所を伸ばし、短所を修正するための適切な学修支援を行います。ポートフォリオは、大学での学びやその成果、担任教員との面談記録、及びディプロマ・ポリシーで述べた書物（目指せ100冊）からの学びを記録したものであり、各学生の成長の記録と位置付けています。

(2) 人間社会学部 国際観光学科

<ディプロマ・ポリシー（本学科の学位授与の方針）>

国際観光学科（以下本学科という）では、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、観光及び関連する領域の専門的知識・技能を修得し、観光産業・事業、国際交流、スポーツによる地域貢献、まちづくりの各分野で実践的に活動できる人材を育成します。観光及び関連する領域では、特に「人間尊重」を基本理念とした「ホスピタリティの獲得」が重要です。よって、本学科が求める所定の単位数を修得し、ホスピタリティを構成する次の諸能力を身に付け活用することができる人物に学位を授与します。

(1) 専門力

学位プログラムの基本となる専門的知識・技能を修得し、それらを観光及び地域社会の様々な課題に適用して解決することができる。

(2) 情報収集、分析力

社会に存在する情報を収集し、それを分析して自己の成長や観光及び地域社会の課題解決などに役立てることができる。

(3) コミュニケーション力

グローバルな視点で、意見を傾聴するとともに、自分の考えを明確にした上で、意見を交換し、相互理解を図ることができる。

(4) 協働・課題解決力

観光及び地域社会の課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。

(5) 多様性理解力

自国の文化を深く理解するとともに他国の文化を尊重し、障がいの有無などによらず、共生に向けた行動がとれる。

<カリキュラム・ポリシー（本学科のディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成方針）>

本学科では、全学のカリキュラム・ポリシーをもとに、以下の観点からカリキュラムを編成します。

A. 教育内容

初年次教育や教養教育に関しては全学のディプロマ・ポリシーに従って展開し、専門教育に関しては、次の方針で臨みます。

○ 専門教育

- ① 高年次のハイ・インパクト・プラクティス（教育効果の高い学外での体験実習）の基盤となる経験や学びをカリキュラムに組み込み、ホスピタリティを構成する諸能力や次世代の教育に携わる人材となるための知識・技能を段階的に身に付けることができるようなカリキュラムを編成します。
- ② 全学共通科目及び学部共通科目を通して、社会人として必要な幅広い教養やホスピタリティ精神の習得を図ります。
- ③ 学科共通科目では、観光学の根幹を学ぶための科目を配置し、観光学の基礎的知識を理解し、多文化が共生する現代社会の諸問題を解決するための能力の伸長を図ります。
- ④ 3つの専門コースから選択したコース科目を中心に学ぶことにより、専門的な知識・技能と分析能力の向上を図ります。
- ⑤ ハイ・インパクト・プラクティスとして設定した「国内観光研修」「海外観光研修」「語学研修」「海外留学」「インターンシップ」「長期インターンシップ」「地域連携活動」等の学外での学びを通して、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けるとともに、現場で学んだことを活かし成長することを可能にします。
- ⑥ 少人数の専門演習、及び卒業研究では、特定のテーマに関する調査・研究によって知識を深め、その学修成果を発表することにより表現力を身に付けるとともに、様々な問題解決のための思考力・判断力の向上を図ります。

B. 教育方法

アクティブ・ラーニングを全授業科目で展開するとともに、その成果を生かす研修や実習を組み込み、毎日の授業をディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の形成につなげます。

また、学生一人ひとりに対して担任となる教員を決め、全学のディプロマ・ポリシーに沿った教育を行い、それぞれの長所を伸ばし、短所を修正するための適切な学修支援を行います。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

〔全学共通科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/about/features/curriculum.html>

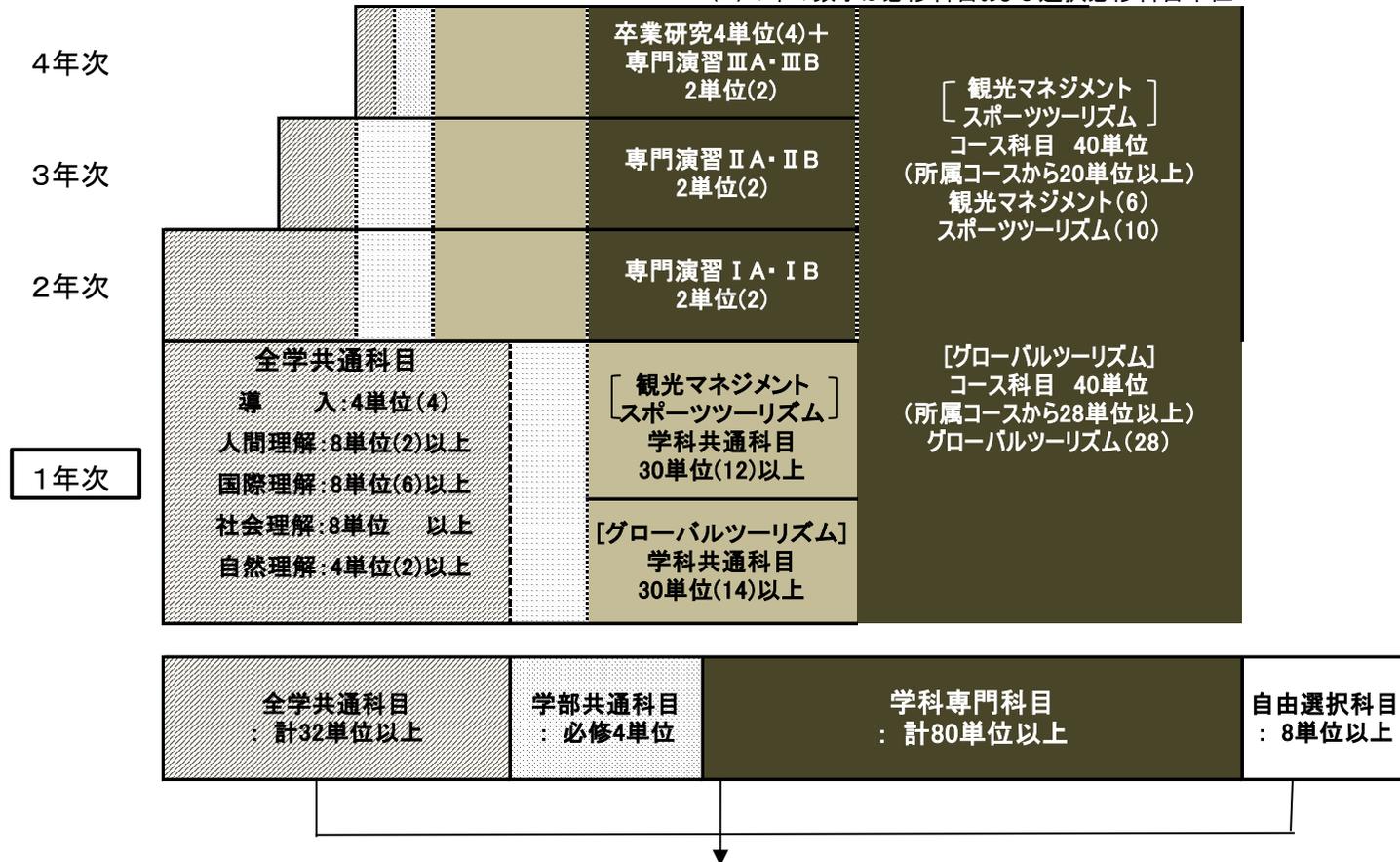
〔国際観光学科専門科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/course/international-tourism/curriculum/>

<履修モデル>

① 履修モデルの概要

履修モデルの概要

()の中の数字は必修科目および選択必修科目単位



合計して卒業時に124単位以上となるよう履修計画を立てよう

② 観光マネジメントコース-博物館学芸員課程

博物館学芸員課程は、博物館法の規定により、博物館の専門職員である学芸員を養成して資格を与える課程です。

◆履修モデル

		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
学芸員課程 必修科目	全学共通			生涯学習概論					
	学科専門		博物館概論	博物館教育論	博物館情報メディア論	博物館資料保存論	博物館経営論	博物館実習 C	
					博物館資料論	博物館展示論			
					博物館実習 A	博物館実習 B			

③ 観光マネジメントコースー日本語教員養成課程

◆課程修了要件

文化庁指定		本学設置科目		必要 単位	配当 年次
区分	細 目	授業科目名	設置区分		
社会 ・ 文化 ・ 地域	世界と日本	世界史	学科共通	2	2
		日本文化論	学科共通	2	2
	異文化接触	倫理学	全学・人間	2	2
		宗教学	全学・人間	2	2
日本語教育の歴史と現状	国際交流研究	学科共通	2	1	
言語と 社会	言語と社会の関係	日本史	学科共通	2	2
		文学論	全学・人間	2	1
言語と 心理	言語理解の過程	社会学	全学・社会	2	1
		異文化理解と心理	生涯学習概論	全学・社会	2
言語と 教育	言語教育法・実習	心理学	全学・人間	2	1
		紀行文学論	学科共通	2	2
		日本語教授法 A	観光マゼ/ムト	2	3
	異文化間教育・ コミュニケーション教育	日本語教授法 B	観光マゼ/ムト	2	3
		日本語教育実習	観光マゼ/ムト	2	4
		異文化コミュニケーション論	全学・国際	2	2
言語教育と情報	コンピュータ基礎演習 IA	全学・自然	1	1	
	コンピュータ基礎演習 IB	全学・自然	1	1	
言語	日本語の構造一般	ビジネス文書	学科共通	2	2
		言語と文化	学科共通	2	2
	日本語の構造	日本語コミュニケーション A	観光マゼ/ムト	2	2
		日本語コミュニケーション B	観光マゼ/ムト	2	2
		日本語表現法	観光マゼ/ムト	2	2
	言語研究	日本語の研究 A	観光マゼ/ムト	2	3
		日本語の研究 B	観光マゼ/ムト	2	3
		卒業研究 (日本語研究・対象言語研究を含む)	専門演習等	4	4
	コミュニケーション能力	教養セミナー A	全学・導入	1	1
		教養セミナー B	全学・導入	1	1
		英語演習 IA	全学・国際	1	1
		英語演習 IB	全学・国際	1	1
		英語演習 IIA	全学・国際	1	1
		英語演習 IIB	全学・国際	1	1
		英語演習 IIIA	全学・国際	2	2
		英語演習 IIIB	全学・国際	2	2
		英語演習 IVA	全学・国際	3	3
		英語演習 IVB	全学・国際	3	3
中国語 IA		全学・国際	1	1	
中国語 IB		全学・国際	1	1	
コリア語 IA		全学・国際	1	1	
コリア語 IB		全学・国際	1	1	
フランス語 IA		全学・国際	1	1	
フランス語 IB		全学・国際	1	1	
日本語 A		全学・国際	1	1	
日本語 B	全学・国際	1	1		
その他	本学の特質	茶道文化 IA	全学・人間	1	1
		茶道文化 IB	全学・人間	1	1
		長崎研究	学科共通	2	1
		特別実習 (日本料理・華道)	外部委託	3	3
合計単位				58	—

◆履修モデル

日本語教員養成課程履修モデル (58 単位必修)

4 年次 (6 単位)	卒業研究		特別実習 (日本料理・華道)	
日本語教育実習	日本語教授法 A	日本語教授法 B	日本語の研究 A	日本語の研究 B
3 年次 (8 単位)	日本語教授法 A	日本語教授法 B	日本語の研究 A	日本語の研究 B
2 年次 (24 単位)	倫理学・宗教学 (選択)	異文化コミュニケーション論	生涯学習概論	日本史 世界史 ビジネス文書 言語と文化 日本語表現法 日本文化論 紀行文学論
1 年次 (20 単位)	教養セミナー A・B	心理学	文学論	英語演習他 (語学) (4) 社会学 コンピュータ基礎演習 IA・IB 長崎研究 国際交流研究

日本語教員養成課程は、文化庁指定のガイドラインに従い、日本語を母語としない者に対して日本語を教授する日本語教員を養成する課程です。定められたすべての科目の単位修得者には日本語教員養成課程修了証が与えられます。

※ [] の科目は、3 年次編入生の免除科目です。最高 20 単位が免除となります。

※ ★ の科目は、2 年次編入生の免除科目です。最高 10 単位が免除となります。ただし、英語演習他 (語学) は 2 単位が免除となります。

④ 観光マネジメントコースー旅行業務取扱管理者養成課程

旅行業務取扱管理者養成課程は、旅行業に必須の資格である旅行業務取扱管理者〔総合・国内〕試験合格を目的としています。

⑤ 観光マネジメントコースーホテル経営管理者養成課程

ホテル経営管理者養成課程は、ホテル業界でリーダーとして活躍する人材を育成することを目的としています。課程履修者には、卒業時にホテル経営管理者養成課程修了証が授与されます。

◆試験科目に対応したカリキュラム

試験科目	本学設置科目	設置区分	配当年次
旅行業法	旅行業法・約款	コース科目	1
	旅行業論	コース科目	2
約 款	旅行業法・約款	コース科目	1
	旅行業論	コース科目	2
	国内旅行実務Ⅰ	コース科目	1
国内旅行実務	国内旅行実務Ⅰ	コース科目	1
	国内旅行実務Ⅱ	コース科目	2
	国内観光資源	コース科目	1
海外旅行実務	海外旅行実務Ⅰ	コース科目	1
	海外旅行実務Ⅱ	コース科目	2
	海外観光資源A	コース科目	1
	海外観光資源B	コース科目	2
	旅行ビジネス英語	コース科目	3

◆課程修了要件

項 目	本学設置科目等
ホテル業関連科目の履修	宿泊業論
	ホテルオペレーション
	Hotel Management
	ホテル管理論
企業経営関連科目の履修	ホテルビジネス英語
	マーケティング論
	経営学
実践的な英語力の獲得	会計学
	TOEIC 470点以上 または 英語検定 準2級以上
ホテル関連資格の取得	(財)日本ホテル教育センター主催 ホテルビジネス実務検定試験 ベーシック2級以上

⑥ 観光マネジメントコース—公務員・教養課程

公務員・教養課程は、公務員として、あるいはサービス業の従事者として、地域社会に貢献する人材を育成することを目的としています。

◆課程必修科目（8科目15単位）

区分	学修のねらい	配当年次		備考
		1年	2年	
全学 共通 科目	a. 人はどう生きるかを学ぶ	哲学	倫理学 宗教学	1科目を 選択必修
	b. 人間をミクロまたはマクロに理解する	心理学 社会学		1科目を 選択必修
	c. 社会のはたらきを理解する	法学 政治学 経済学	経営学	1科目を 選択必修
	d. 地球規模で考え行動する	地球環境論		必修
	e. 地域社会の人たちと協働する	地域の理解と連携		必修
	f. マルチメディア コンテンツの制作スキルを修得する		コンピュータ基礎演習ⅡA コンピュータ基礎演習ⅡB	1科目を 選択必修
学科 専門 科目	g. それぞれの時代の文化や政治経済、民族、 芸術などを学ぶ		日本史 世界史	1科目を 選択必修
	h. 長崎を知り、他の地域の特色と比較する	長崎研究		必修

◆授業外の講座

講座名	検定試験	公務員チーム	教養チーム	JLPTチーム
a. 社会人 基礎講座A	①語彙・読解力検定 ②日本語検定 ③思考力検定	推奨	3つから 2つを選択	推奨
b. 社会人 基礎講座B	④日商簿記検定 ⑤サービス接客検定 ⑥秘書検定 ⑦Illustrator® クリエイター能力認定試験 ⑧グローバル人材ビジネス 実務検定（G検）	5つから 少なくとも 1つを選択	5つから 少なくとも 1つを選択	推奨
c. 語学検定	⑨TOEIC ⑩英検 ⑪HSK（中国語） ⑫TOPIK（韓国語）	推奨	推奨	推奨 （留学生の母 語は除く）
d. 公務員試験 対策特別講座		必須		
e. 日本語能力試験 対策講座				必須

<課程修了要件>

- ◆公務員チーム
 - ・課程必修科目の単位を修得する。
 - ・公務員試験対策特別講座を修了する。
 - ・公務員試験を受験する。
 - ・社会人基礎講座Bの検定試験（最低1種類）を課程履修期間中に少なくとも2回は受験し、1回以上合格する。
 - ・社会人基礎講座Aの検定試験、または語学検定（母語を除く）のいずれか1つを受験し、合格する。
- ◆教養チーム
 - ・課程必修科目の単位を修得する。
 - ・社会人基礎講座Aの検定試験（2種類）を課程履修期間中にそれぞれ少なくとも2回は受験し、それぞれ1回以上合格する。
 - ・社会人基礎講座Bの検定試験（最低1種類）を課程履修期間中に少なくとも2回は受験し、1回以上合格する。
 - ・語学検定（母語を除く）のいずれか1つを受験し、合格する。
- ◆JLPTチーム
 - ・日本語能力試験を課程履修期間中に少なくとも2回は受験し、1回以上合格する。
 - ・社会人基礎講座Aの検定試験、社会人基礎講座Bの検定試験、または語学検定（JLPTならびに母語を除く）のいずれか1つを受験し、合格する。

⑧ グローバルツーリズムコース

グローバルツーリズムコースの学生には、2年次後期に留学することを前提としたカリキュラムが組んであります。

到達目標として、入学時と比べてTOEICスコア換算で、1年前期終了時に50点アップ、1年後期終了時には100点アップ、2年前期終了時には150点アップを目指します。また、標準的な学生の卒業時の目標値として、TOEIC730点レベルをクリアすることを目指します。

◆原則として、必ず履修する英語関連科目

全学共通	英語演習ⅠA
	英語演習ⅠB
	英語演習ⅡA
	英語演習ⅡB
	英語演習ⅢA
	International Relations
学科共通	Japanese Culture A
	Japanese Culture B
	History A
	History B
	Tourism Geography
海外留学	
グローバル ツーリズム	Practical English ⅠA
	Practical English ⅠB
	Practical English ⅡA
	Practical English ⅡB
	Practical English ⅢA
	Practical English ⅢB
	English Reading Skills Ⅰ
	English Reading Skills Ⅱ
	English Reading Skills Ⅲ
	English Writing Skills Ⅰ
	English Writing Skills Ⅱ
	English Writing Skills Ⅲ
	Japanese Business Management
	Japanese Economy
	Tourism Marketing
	Hotel Management
	Aviation Industry
	英語コミュニケーションA
	英語コミュニケーションB
	TOEIC 対策A
TOEIC 対策B	
英語表現法A または B	
英語学	

◆履修を推奨する英語関連科目

全学共通	英語演習ⅢB
	英語演習ⅣA
	英語演習ⅣB
グローバル ツーリズム	英会話
	旅行ビジネス英語
	ホテルビジネス英語

(3) 人間社会学部 社会福祉学科

<ディプロマ・ポリシー（本学科の学位授与の方針）>

社会福祉学科（以下本学科という）は、大学ディプロマ・ポリシーを基本精神として踏まえた上で、必須単位数等を定めた本学科の学士課程カリキュラムを履修することによって、身に付けた深い専門的知識と高い技能、及び社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行って、地域社会及び国際社会に貢献することができる人物を育成します。

また、自らの専門を軸に生涯にわたって学び、人間性を豊かにする以下の諸能力を身に付け、活用することができる人物に学位を授与します。

(1) 専門力

学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を修得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができる。

(2) 情報収集、分析力

社会の課題を情報収集し、分析するための専門的能力を身に付け、そのことを自己及び社会の成長に役立てることができる。

(3) コミュニケーション力

ホスピタリティの精神に基づいて、多様な立場の人々と相互理解を図ることができる。

(4) 協働・課題解決力

周りの人々を巻き込んで、協力して課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。

(5) 多様性理解力

世代間や障がい等による人間の多様性について理解し、真の共生社会を実現するための活動ができる。

<カリキュラム・ポリシー（本学科のディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成方針）>

本学科では、大学カリキュラム・ポリシーを基本精神として踏まえた上で、初年次教育（1年生）、教養教育、及び専門教育の授業科目を、難易度順に積み重ね、体系的にしっかりと学修できるように科目を学年配置します。そして、講義や実習を効果的に組み合わせたカリキュラムにより、真に学問を体得できる編成をします。

A. 教育内容

○ 初年次教育

教養セミナー（ゼミ）を軸に、4年間の学修の基盤となる大学理念、学修態度の基盤形成、ホスピタリティに関する知識とその精神を身に付けられるカリキュラムを編成しています。

○ 教養教育

生涯にわたって自ら学び続ける基礎的教養を身に付けます。

○ 専門教育

① 専門教育のカリキュラムは、学生が個々の学問的関心と探究心を抱くように編成されています。特に、専門演習、卒業研究は少人数のゼミナールという形でより深く探究できる形式となっており、これらを通してポートフォリオの作成や省察が行うことが出来ます。

② 学科専門科目（基幹）では、社会福祉の知識・技術を理解し実践できるための科目を段階的に学び、専門的な観点から人間と社会を理解する視点を身に付けます。

③ 学科専門科目（展開）では、人をかけがえのない存在として捉え、生活課題を抱える人々を支援し、国際社会、及び地域社会の課題に対応する能力を身に

付け、様々な問題解決のための思考力・判断力の向上を図ります。

- ④ ポートフォリオは、専門家としての知識・技能・表現力・適切な態度を身に付けるために、学修過程の成果物を蓄積し、ルーブリックによる評価を行いながらポートフォリオを形成します。
- ⑤ 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験資格をはじめ、スクールソーシャルワーカー、教育職員免許状、福祉心理士、障がい者スポーツ指導員（初級）、生きがい情報士の資格が取得できるカリキュラムを編成しています。なお、社会福祉主事任用資格は卒業と同時に全員が取得できます。

B. 教育方法

全学のディプロマ・ポリシーに沿った、アクティブ・ラーニング（本学科では、学修者が主体的・能動的・協働的に学べる学修法とする）を授業科目で展開するとともに、その成果を活かす演習や実習科目を組み込み、毎日の授業をディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の形成につなげます。

また、学生一人ひとりに対して担任となる教員を決め、ポートフォリオを活用した面談を行うことによって、それぞれの長所を伸ばし、短所を修正するための適切な学修支援を行います。ポートフォリオは、大学での学びやその成果、担任教員との面談記録等からの学びを記録したものであり、各学生の成長の記録と位置付けています。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

〔全学共通科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/about/features/curriculum.html>

〔社会福祉学科専門科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/course/social-welfare/curriculum/>

<履修モデル>

① 社会福祉主事任用資格

(ゴシック体は資格指定科目)

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計		
										区分合計	合計	
全学共通科目	導入	4	教養セミナーA・B ホスピタリティ概論	2						4	32	
		人間理解	6	茶道文化 I A・I B	2							6
	※残り4単位以上を選択必修											
	国際理解		8	英語演習 I A・I B ※ 英語演習 II A・II B	2							8
		※残り4単位以上を選択必修										
	社会理解	10	社会学	2						10		
		※残り8単位以上を選択必修										
	自然理解	4	コンピュータ基礎演習 I A・I B	2						4		
		※残り2単位以上を選択必修										
	学部共通	4	キャリア開発 I	2			キャリア開発 II	2		4		4
基幹		50	相談援助の基盤と専門職A・B 相談援助演習 I	4 1	社会福祉原論A 社会保障論A 専門基礎演習A・B	2 2 2	社会福祉原論B 社会保障論B 専門演習A・B	2 2 2		50	50	
	※残り33単位以上を選択必修											
	展開	20						卒業研究	4	20	30	
		※残り16単位以上を選択必修										
		※10単位以上を学科専門科目から選択										
自由選択科目	8	※8単位以上を本学の全領域の科目から選択							8	8		
計	124	21		6		8		4	124	124		

社会福祉に関する科目を3科目以上履修し、大学を卒業することで社会福祉主事の任用資格を取得できます。

社会福祉主事任用資格については、「履修の手引き」(社会福祉学科授業の表1)を参考にして、3科目以上を履修すること。ただし、そのうち「社会学」、「社会福祉原論A・B」、「社会保障論A」は必修科目として履修。
※留学生(日本語が母語でない学生を含む)の必修4単位は、国際理解区分の中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

② 社会福祉士受験資格

(ゴシック体は資格指定科目)

社会福祉士を目指す場合に履修が必要な科目(指定科目)と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計			
										区分	合計		
全学共通科目	導入	4	教養セミナーA・B	2						4	32		
			ホスピタリティ概論	2									
	人間理解	6		茶道文化 I A・I B	2							6	
				心理学	2								
			※残り2単位以上を選択必修										
	国際理解	8		英語演習 I A・I B ※	2							8	
				英語演習 II A・II B	2								
	※残り4単位以上を選択必修												
	社会理解	10		社会学	2							10	
			※残り8単位以上を選択必修										
	自然理解	4		コンピュータ基礎演習 I A・I B	2							4	
			※残り2単位以上を選択必修										
	学部共通	4		キャリア開発 I	2			キャリア開発 II	2			4	
	学科専門科目	基幹	50		高齢者福祉論	2	社会福祉原論A	2	社会福祉原論B	2		50	
				介護福祉論	2	障害者福祉論	2	社会保障論B	2				
				児童福祉論	2	社会保障論A	2	公的扶助論	2				
				医学概論	2	地域福祉論A・B	4	相談援助の理論と方法 II A・II B	4				
				相談援助の基盤と専門職A・B	4	相談援助の理論と方法 I A・I B	4	相談援助演習 III A・III B	2				
				相談援助演習 I	1	相談援助演習 II A・II B	2	専門演習A・B	2				
						相談援助実習の理解	1						
						専門基礎演習A・B	2						
※残り4単位以上を選択必修													
展開				20			権利擁護と成年後見論	2	社会福祉調査論	2	福祉経営論		2
					相談援助実習指導 I	1	相談援助実習	4	福祉行政と福祉計画論	2			
							相談援助実習指導 II A・II B	2	更生保護論	1			
							保健医療サービス論	2	就労支援サービス論	1			
									社会福祉総合演習(福祉専門)	1			
									社会福祉総合演習(福祉共通)	1			
								卒業研究	4				
※残り10単位以上を選択必修													
自由選択科目	8	※学科専門科目から10単位、自由選択科目(全学)から8単位は自由に選択できる。								8			
計	124	31		22		26		12		124	124		

※留学生(日本語が母語でない学生を含む)の必修4単位は、国際理解区分の中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

③ 介護福祉士受験資格

(ゴシック体は資格指定科目)

介護福祉士を目指す場合に履修が必要な科目(指定科目)と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計		
										区分	合計	
全学共通科目	導入	4	教養セミナーA・B ホスピタリティ概論	2 2						4	32	
	人間理解	6	茶道文化 I A・I B 心理学	2 2						6		
			※残り2単位以上を選択必修									
	国際理解	8	英語演習 I A・I B 英語演習 II A・II B	2 2						8		
			※残り4単位以上を選択必修									
	社会理解	10	社会学	2						10		
			※残り8単位以上を選択必修									
	自然理解	4	コンピュータ基礎演習 I A・I B	2						4		
			※残り2単位以上を選択必修									
	学部共通	4	キャリア開発 I	2		キャリア開発 II	2			4		4
学科専門科目	基幹	50	社会の理解	2	社会福祉原論A	2	社会福祉原論B	2	介護概論ⅢA・ⅢB	4	54	54
			児童福祉論	2	社会保障論A	2	障害の理解 I・II	4				
			医学概論	2	介護概論 II A・II B	4	専門演習A・B	2				
			相談援助の基盤と専門職A・B	4	発達と老化の理解 I・II	4						
			相談援助演習 I	1	認知症の理解 I・II	4						
			介護概論 I A・I B	4	コミュニケーション技術	1						
			介護基礎学 I・II	4	相談援助の理論と方法 I A	2						
	生活支援技術 I A・I B	2	専門基礎演習A・B	2								
	展開	20	生活支援技術 II A・II B	2	生活支援技術ⅢA・ⅢB	2	生活支援技術ⅤA・ⅤB	2	介護過程ⅢA・ⅢB	2	40	40
					生活支援技術ⅣA・ⅣB	2	介護過程 II A・II B	2	介護総合演習Ⅲ	1		
				介護過程 I	1	介護総合演習 II	1	介護実習Ⅲ	4			
				介護総合演習 I	2	介護実習 II	2	福祉経営論	2			
		介護実習 I	4	介護における医療的ケア I・II	6	社会福祉総合演習(介護)	1					
						卒業研究	4					
自由選択科目	8	※学科専門科目から10単位、自由選択科目(全学)から8単位は自由に選択できる。 ただし、基幹科目・展開科目を多く履修することにより、すでに満たしている。							0	0		
計	124	41		34		23		18		130	130	

※留学生(日本語が母語でない学生を含む)の必修4単位は、国際理解区分の中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

④ 精神保健福祉士受験資格

(ゴシック体は資格指定科目)

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計			
										区分	合計		
全学共通科目	導入	4	教養セミナーA・B ホスピタリティ概論	2 2						4	32		
	人間理解	6	茶道文化 I A・I B 心理学	2 2						6			
		※残り2単位以上を選択必修											
	国際理解	8	英語演習 I A・I B ※1 英語演習 II A・II B	2 2						8			
		※残り4単位以上を選択必修											
	社会理解	10	社会学	2						10			
		※残り8単位以上を選択必修											
	自然理解	4	コンピュータ基礎演習 I A・I B	2						4			
		※残り2単位以上を選択必修											
	学部共通	4	キャリア開発 I	2			キャリア開発 II	2		4		4	
学科専門科目	基幹	50	高齢者福祉論	2	社会福祉原論A	2	社会福祉原論B	2			66	66	
			介護福祉論	2	障害者福祉論	2	社会保障論B	2					
			児童福祉論	2	社会保障論A	2	公的扶助論	2					
			医学概論	2	地域福祉論A・B	4	相談援助の理論と方法 II A・II B	4					
			精神保健A・B	4	相談援助の理論と方法 I A・I B	4	相談援助演習 III A・III B	2					
			相談援助の基盤と専門職A・B	4	相談援助演習 II A・II B	2	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A・I B	4					
			相談援助演習 I	1	相談援助実習の理解	1	専門演習A・B	2					
					精神医学A・B	4							
					精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2							
					精神保健福祉制度論A・B	4							
			精神保健福祉論	2									
			専門基礎演習A・B	2									
	展開	20			権利擁護と成年後見論	2	社会福祉調査論	2	福祉経営論	2		42	42
					相談援助実習指導 I	1	相談援助実習	4	福祉行財政と福祉計画論	2			
							相談援助実習指導 II A・II B	2	更生保護論	1			
							保健医療サービス論	2	就労支援サービス論	1			
							精神保健福祉援助演習(基礎)	1	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A・II B	4			
							精神保健福祉援助実習指導 I	1	精神保健福祉援助演習(専門)A・B	2			
									精神保健福祉援助実習A※2	2			
								精神保健福祉援助実習B	5				
								精神保健福祉援助実習指導 II A・II B	2				
								社会福祉総合演習(福祉共通)	1				
						社会福祉総合演習(精神)	1						
						卒業研究	4						
自由選択科目	10	※学科専門科目から10単位、自由選択科目(全学)から8単位は自由に選択できる。 ただし、基幹科目・展開科目を多く履修することにより、すでに満たしている。								0	0		
	8									0	0		
計	124	35		34		32		27		144	144		

精神保健福祉士を目指す場合に履修が必要な科目(指定科目)と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。

※1 留学生(日本語が母語でない学生を含む)の必修4単位は、国際理解区分中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。
 ※2 受験にあたっては、「相談援助実習」「相談援助実習指導II A」「相談援助実習指導II B」の単位修得者は、読み替えることができる。

⑤ スクール (学校) ソーシャルワーク教育課程資格

(ゴシック体は資格指定科目)

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計		
										区分合計	合計	
全学共通科目	導入	教養セミナーA・B	2							4	32	
		ホスピタリティ概論	2									
	人間理解	茶道文化 I A・I B	2									6
		心理学	2									
		教育学	2									
	国際理解	英語演習 I A・I B	2									8
		英語演習 II A・II B	2									
	※残り4単位以上を選択必修											
	社会理解	社会学	2									10
	※残り8単位以上を選択必修											
自然理解	コンピュータ基礎演習 I A・I B	2								4		
※残り2単位以上を選択必修												
学部共通	キャリア開発 I	2			キャリア開発 II	2				4	4	
学科専門科目	基幹	高齢者福祉論	2	社会福祉原論A	2	社会福祉原論B	2			50	50	
		介護福祉論	2	障害者福祉論	2	社会保障論B	2					
		児童福祉論	2	社会保障論A	2	公的扶助論	2					
		医学概論	2	地域福祉論A・B	4	相談援助の理論と方法 II A・II B	4					
		相談援助の基盤と専門職A・B	4	相談援助の理論と方法 I A・I B	4	相談援助演習 III A・III B	2					
		相談援助演習 I	1	相談援助演習 II A・II B	2	専門演習A・B	2					
		精神保健B	2	相談援助実習の理解	1							
				専門基礎演習A・B	2							
				児童心理学	2							
	展開				権利擁護と成年後見論	2	社会福祉調査論	2	福祉経営論	2		31
					相談援助実習指導 I	1	相談援助実習	4	福祉行財政と福祉計画論	2		
							相談援助実習指導 II A・II B	2	更生保護論	1		
							保健医療サービス論	2	就労支援サービス論	1		
						スクール(学校)ソーシャルワーク論	2	スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導	1			
						スクール(学校)ソーシャルワーク演習	1	スクール(学校)ソーシャルワーク実習	2			
							社会福祉総合演習(福祉専門)	1				
							社会福祉総合演習(福祉共通)	1				
						卒業研究	4					
※学科専門科目から10単位、自由選択科目(全学)から8単位は自由に選択できる。												
自由選択科目	8									7	7	
計	124	35		24		29		15		124	124	

スクール (学校) ソーシャルワーク教育課程を目指す場合に履修が必要な科目 (指定科目) と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。

※留学生 (日本語が母語でない学生を含む) の必修4単位は、国際理解区分中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

⑥ 障がい者スポーツ指導員（初級）資格

(ゴシック体は資格指定科目)

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計				
										区分合計	合計			
全学共通科目	導入	4	教養セミナーA・B	2						4	32			
			ホスピタリティ概論	2										
	人間理解	6	茶道文化 I A・I B	2								6		
			ボランティア論	2										
	※残り2単位以上を選択必修													
	国際理解	8	英語演習 I A・I B	2								8		
			英語演習 II A・II B	2										
	※残り4単位以上を選択必修													
	社会理解	10	社会学	2								10		
※残り8単位以上を選択必修														
自然理解	4	コンピュータ基礎演習 I A・I B	2							4				
※残り2単位以上を選択必修														
学部共通	4	キャリア開発 I	2			キャリア開発 II	2			4	4			
学科専門科目	基幹	50	相談援助の基盤と専門職A・B	4	社会福祉原論A	2	社会福祉原論B	2		50	50			
			相談援助演習 I	1	社会保障論A	2	社会保障論B	2						
					専門基礎演習A・B	2	専門演習A・B	2						
	※残り33単位以上を選択必修													
	展開	20										20	30	
			※残り14単位以上を選択必修											
※10単位以上を学科専門科目から選択										10				
自由選択科目	8	※8単位以上を本学の全領域の科目から選択									8	8		
計	124	23		6		10		4		124	124			

障がい者スポーツ指導員（初級）を目指す場合に履修が必要な科目（指定科目）と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の資格と組み合わせることもできます。

※留学生（日本語が母語でない学生を含む）の必修4単位は、国際理解区分の中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

⑦ 生きがい情報士受験資格

(ゴシック体は資格指定科目)

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計			
										区分合計	合計		
全学共通科目	導入	4	2							4	32		
		ホスピタリティ概論	2										
	人間理解	6	2									6	
		※残り4単位以上を選択必修											
	国際理解	8	2									8	
		英語演習ⅡA・ⅡB	2										
	※残り4単位以上を選択必修												
	社会理解	10	2									10	
		※残り8単位以上を選択必修											
	自然理解	4	2									4	
		※残り2単位以上を選択必修											
	学部共通	4	2			2						4	4
		キャリア開発Ⅱ											
	学科専門科目	基幹	50	2	2	2	2	2					50
			高齢者福祉論	2	社会福祉原論A	2	社会福祉原論B	2					
			医学概論	2	障害者福祉論	2	社会保障論B	2					
相談援助の基盤と専門職A・B			4	社会保障論A	2	専門演習A・B	2						
相談援助演習Ⅰ			1	地域福祉論A	2								
				地域福祉論B	2								
			相談援助の理論と方法ⅠA	2									
			専門基礎演習A・B	2									
※残り21単位以上を選択必修													
展開		20	1			1	4				20	30	
	健康・生きがいづくり総論				生きがい情報士実習	卒業研究							
	※残り14単位以上を選択必修												
	「生きがい情報士実習」にかえて、「介護実習Ⅰ」、「相談援助実習」を選択することができる。ただし「介護実習Ⅰ」、「相談援助実習」履修に当たっては、それぞれ履修条件がある。												
	10	※10単位以上を学科専門科目から選択									10		
自由選択科目	8	※8単位以上を本学の全領域の科目から選択									8	8	
計	124	26	14	9	4	124	124						

生きがい情報士を目指す場合に履修が必要な科目（指定科目）と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の資格と組み合わせることもできます。

※留学生（日本語が母語でない学生を含む）の必修4単位は、国際理解区分の中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

⑧ 福祉心理士資格

(ゴシック体は資格指定科目)

領域	卒業必修	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計			
										区分合計	合計		
全学共通科目	導入	4	教養セミナーA・B ホスピタリティ概論	2 2						4	32		
		人間理解	6	茶道文化IA・IB 心理学	2 2							6	
	※残り2単位以上を選択必修												
	国際理解		8	英語演習IA・IB 英語演習IIA・IIB	2 2							8	
		※残り4単位以上を選択必修											
	社会理解	10	社会学	2						10			
		※残り8単位以上を選択必修											
	自然理解	4	コンピュータ基礎演習IA・IB	2						4			
		※残り2単位以上を選択必修											
	学部共通	4	キャリア開発I	2			キャリア開発II	2		4		4	
		基幹	50	相談援助の基盤と専門職A・B 相談援助演習I 精神保健A・B	4 1 4	社会福祉原論A 社会保障論A 専門基礎演習A・B	2 2 2	社会福祉原論B 社会保障論B 専門演習A・B	2 2 2			50	50
					児童心理学 相談援助の理論と方法IA・IB 精神医学A・B	2 4 4	障害の理解I・II 相談援助の理論と方法IIA・IIB	4 4					
	※残り11単位以上を選択必修												
	展開		20						卒業研究	4		20	30
			※残り16単位以上を選択必修										
			※10単位以上を学科専門科目から選択										
10											10		
自由選択科目	8		※8単位以上を本学の全領域の科目から選択								8	8	
計	124		27		16		16		4	124	124		

福祉心理士を目指す場合に履修が必要な科目(指定科目)と、履修することが望ましいと考えられる科目を含みます。社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の資格と組み合わせることもできます。

※留学生(日本語が母語でない学生を含む)の必修4単位は、国際理解区分中の母語を除く任意の語学科目4単位で代替できる。

(4) 健康管理学部 健康栄養学科

<ディプロマ・ポリシー（本学科の学位授与の方針）>

健康栄養学科（以下本学科という）では、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材を育成します。栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、専門的知識・技能を身につけるだけでなく、人間尊重を基本理念としたホスピタリティを獲得し、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力に長けることが大切です。よって、本学科が求める所定の単位数を修得し、栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力を身につけ活用することができる人物に学位を授与します。

(1) 専門力

学位プログラムの基本となる専門的知識・技能を修得し、それらを健康・栄養・食生活に関する様々な課題に適用して解決することができる。

(2) 情報収集、分析力

社会に存在する情報を収集・分析し、地域の健康・栄養・食生活に関する課題の抽出を行い、それらの解決などに役立てることができる。

(3) コミュニケーション力

管理栄養士としての専門的な視点を持ち、様々な意見を傾聴することができるとともに、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図ることができる。

(4) 協働・課題解決力

健康・栄養・食生活に関する課題を的確に把握し、管理栄養士としての専門的な視点を持ち、他の人と協力して解決に向けた方策を立案して解決することができる。

(5) 多様性理解力

本国および多様な地域に暮らす人々の文化やあらゆるライフステージの人など多種多様な人の状況を深く理解するとともに、他国や他地域の文化や多様な人を広く受け入れ、共生に向けた行動ができる。

<カリキュラム・ポリシー（本学科のディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成方針）>

本学科では、全学のカリキュラム・ポリシーを基に、以下の視点からカリキュラムを編成します。

A. 教育内容

初年次教育や教養教育に関しては、全学のディプロマ・ポリシーに従い、全学共通科目を通して、栄養士・管理栄養士として幅広い教養やホスピタリティの精神の基盤を身につけます。さらに専門教育に関しては、次の方針で臨みます。

○ 専門教育

- ① 栄養学と関わりの深い化学、生物学に関する基礎科目を設定し、講義や実習を通して専門基礎科目を学ぶための基礎を身につけます。
- ② 栄養学の専門基礎科目群として社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康の分野の科目を設定し、講義や実習を通して専門的知識・技能の基礎を身につけます。
- ③ 栄養学の専門基幹科目群として基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の分野の科目を設定し、講義や実習を通して専門的知識・技能を身につけます。
- ④ 専門的知識・技能をもとに、総合演習Ⅰを経て3年次以降のハイ・インパクト・プラクティス（教育効果の高い学外での体験実習：臨地実習）で専門的知識・

技能の統合を図り、社会性や協調性を育むとともに実践的知識と技術を身につけます。

- ⑤ 総合演習Ⅱと管理栄養士演習、栄養学専門演習を通して、栄養学の知識を再確認します。さらに卒業研究において、特定のテーマに関する実験・調査研究によって知識を深め、それらを発表することにより表現力を養います。これにより様々な問題解決のための論理的思考力・判断力を総合的に身につけます。

B. 教育方法

アクティブラーニングを全授業科目で展開するとともに、その成果を生かす演習や実習を組み込み、毎日の授業をディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の形成につなげます。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

- カリキュラム・シラバス

〔全学共通科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/about/features/curriculum.html>

〔健康栄養学科専門科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/course/health-nutrition/curriculum/>

<履修モデル> ① 管理栄養士国家試験受験資格 ② 栄養士資格 ③ 食品衛生管理者資格 (任用) ④ 食品衛生監視員資格 (任用)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件単位	履修モデル単位	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位			
全学共通科目群	導入	教養セミナーA	◎ 1						4	4	
		教養セミナーB	◎ 1								
		ホスピタリティ概論	◎ 2								
	人間理解	茶道文化 I A	◎ 1			心理学	▲ 2		4	4	
		茶道文化 I B	◎ 1								
	国際理解	英語演習 I A	● 1			比較文化論	▲ 2		6	6	
		英語演習 I B	● 1								
英語演習 II A		● 1									
社会理解			学際連携研究	▲ 2	在宅医療概論	▲ 2		4	4		
自然理解	基礎の化学	▲ 2			地球環境論	▲ 2		6	6		
	コンピュータ基礎演習 I A	◎ 1									
	コンピュータ基礎演習 I B	◎ 1									
区分自由 (※1)			健康科学 地域の理解と連携	▲ 2	統計学	▲ 2		4	6		
基礎	社会・環境と健康	公衆衛生学 I	◎ 2	公衆衛生学 II	◎ 2	健康管理論	◎ 2	40	52		
		食教育論	▲ 2	健康科学実習	◎ 1	臨床心理学	▲ 2				
		健康栄養入門	▲ 2			国際栄養論	▲ 2				
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学 I	◎ 2	解剖生理学実習	◎ 1	運動生理学	▲ 2				
		解剖生理学 II	◎ 2	栄養生理学実習	◎ 1						
		生物有機化学	▲ 2	栄養代謝学	◎ 2						
		生化学	◎ 2	生化学実習	◎ 1						
	食べ物と健康	微生物学	◎ 2	臨床医学入門 I	◎ 2						
		微生物学実習	◎ 1	臨床医学入門 II	◎ 2						
		食品学 I	◎ 2	食品学実習	◎ 1						
	食品学 II	◎ 2	食品衛生学実習	◎ 1							
	食品衛生学	◎ 2	調理科学(食品加工学を含む)	◎ 2							
	調理学	▲ 2	調理学実習 III	◎ 1							
	調理学実習 I	◎ 1									
	調理学実習 II	◎ 1									
学科学科専門科目群	基礎栄養学	◎ 2	基礎栄養学実習	◎ 1				46	53		
	応用栄養学		応用栄養学 I	◎ 2	応用栄養学 III	◎ 2	スポーツ栄養学実習			▲ 1	
				応用栄養学 II	◎ 2	応用栄養学実習	◎ 1				
	栄養教育論			栄養教育論 I	◎ 2	栄養教育論 II	◎ 2				
						栄養教育論 III	◎ 2				
						栄養教育論実習 I	◎ 1				
	臨床栄養学			臨床栄養管理学 I	◎ 2	臨床栄養管理学 III	◎ 2			食介護論	▲ 1
				臨床栄養管理学 II	◎ 2	臨床栄養管理学 IV	◎ 2				
						臨床栄養管理実習	◎ 1				
						治療食実習	◎ 1				
公衆栄養学			公衆栄養学 I	◎ 2	公衆栄養学実習	◎ 1					
			公衆栄養学 II	◎ 2							
			栄養情報処理	▲ 2							
給食経営管理論			給食経営管理論 I	◎ 2	給食経営管理実習(学内)	◎ 1					
			給食経営管理論 II	◎ 2	給食栄養管理実習	▲ 1					
総合演習					総合演習 I	◎ 1	総合演習 II	◎ 1			
	臨地実習					臨地実習 I (給食の運営)	◎ 1				
					臨地実習 II (給食経営管理論)	◎ 1					
					臨地実習 III (公衆栄養学)	● 1					
					臨地実習 IV (臨床栄養学A)	● 1					
					臨地実習 V (臨床栄養学B)	● 2					
関連	栄養の化学演習	◎ 1			栄養学応用演習 I	▲ 1	栄養学専門演習	▲ 2			
	基礎化学実習	▲ 1			栄養学応用演習 II	▲ 1	管理栄養士演習	◎ 2			
自由選択 (※2)	栄養の生物学	▲ 2			地域栄養論	▲ 2	卒業研究	◎ 4			
					スポーツ栄養学	▲ 2					
合計		47		44		47		17	126	155	

説明) 1. ◎=必修科目、●=選択必修科目、▲=選択科目を示す。
 2. ※1 = 全学共通科目群の中から分野にかかわらず、自由に履修できる。
 3. ※2 = 全学共通科目、健康栄養学科及び他学科の専門科目から特定の科目を除いて自由に履修できる。
 4. 斜字=食品衛生管理者・監視員任用資格認定科目である。
 5. モデル内の「全学共通科目群」は本学開講科目の一部で設定し、「学科学科専門科目群」は履修推奨科目を設定している。
 6. 3年次と4年次の合計単位数は、臨地実習の履修年次により異なる。

(5) 薬学部 薬学科

<ディプロマ・ポリシー（本学科の学位授与の方針）>

薬学部薬学科（以下本学科という）では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人（薬剤師）を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育を実践します。

よって、本学科が求める所定の単位数を修得し、次のホスピタリティを構成する5つの能力を有すると認められる学生に、「学士（薬学）」の学位を授与します。

(1) 専門力

- 薬の専門家としての基礎的な科学力・研究能力を備えている。
- 薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識を備えている。

(2) 情報収集、分析力

- 高度化・複雑化する医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる。
- 医療の進歩に関心を払い、生涯にわたり学び続けることができる。

(3) コミュニケーション力

- 薬の専門家として十分なコミュニケーション能力を備えている。

(4) 協働・課題解決力

- 薬の専門家としてチーム医療に参画できる能力を備えている。
- 薬の専門家として安全で適切な薬物療法に責任を持ち、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる。
- 薬の専門家として後進の指導に当たる意欲と教育能力を備えている。

(5) 多様性理解力

- 患者・生活者本位の視点、倫理観及び責任感を持って地域医療・保健に参画することができる。

<カリキュラム・ポリシー（本学科のディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成方針）>

本学科では、全学共通科目・薬学専門科目に加え、本学建学の理念である「人間尊重」を重視した独自の科目を加えた体系的なカリキュラム（学位プログラム）を通じて、ディプロマ・ポリシーに示す素養および能力を有する学生の育成を実施します。

A. 教育内容

初年次教育や教養教育に関しては、全学のディプロマ・ポリシーに従って展開します。また、全授業科目を通して、社会人・医療人・薬剤師として必要な基本的教養、および「人間尊重」に基づく豊かな人間性を身につけます。

○ 専門科目

- ① 早期体験学習・臨床体験学習・ヒューマニズム教育等を通して、社会が求める医療人としての責任感・倫理観、医療人として生涯学び続ける心構えを修得します。
- ② 薬学教育専門科目を、順次性を持って学修することで、薬剤師に必要な知識と技能を効率よく修得します。
- ③ 薬学実務実習を通して、幅広い薬剤師業務に必要な知識、技能、態度を修得します。
- ④ 他学部と連携した高齢者医療・在宅介護に重点をおいた科目を通して、予防医学や地域医療に貢献できる薬剤師としての実践力を修得します。
- ⑤ 薬学の専門知識と技能の融合を目的とした総合演習科目を通して、薬剤師としての実践力を修得します。

⑥ 卒業研究を通して、深い専門性、研究する心と態度、問題発見・解決の能力、さらに後進の指導にあたる能力を修得します。

B. 教育方法

- ① 入学から卒業まで、担任教員が中心となって一貫した個別指導を実施します。
- ② 初年次教育では基礎科目において少人数クラス授業を導入、多様な入学者が主体的な学びを实践できるように配慮します。
- ③ 講義・実習・演習など様々な教育方法を用いて、ディプロマ・ポリシーに示す素養および能力（専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力）の育成を図ります。また、外部評価者が参加する科目では、客観的な視点を取り入れた教育・評価を実施します。
- ④ アクティブ・ラーニングを全授業科目に導入することで、能動的学習態度を醸成します。

<カリキュラム>

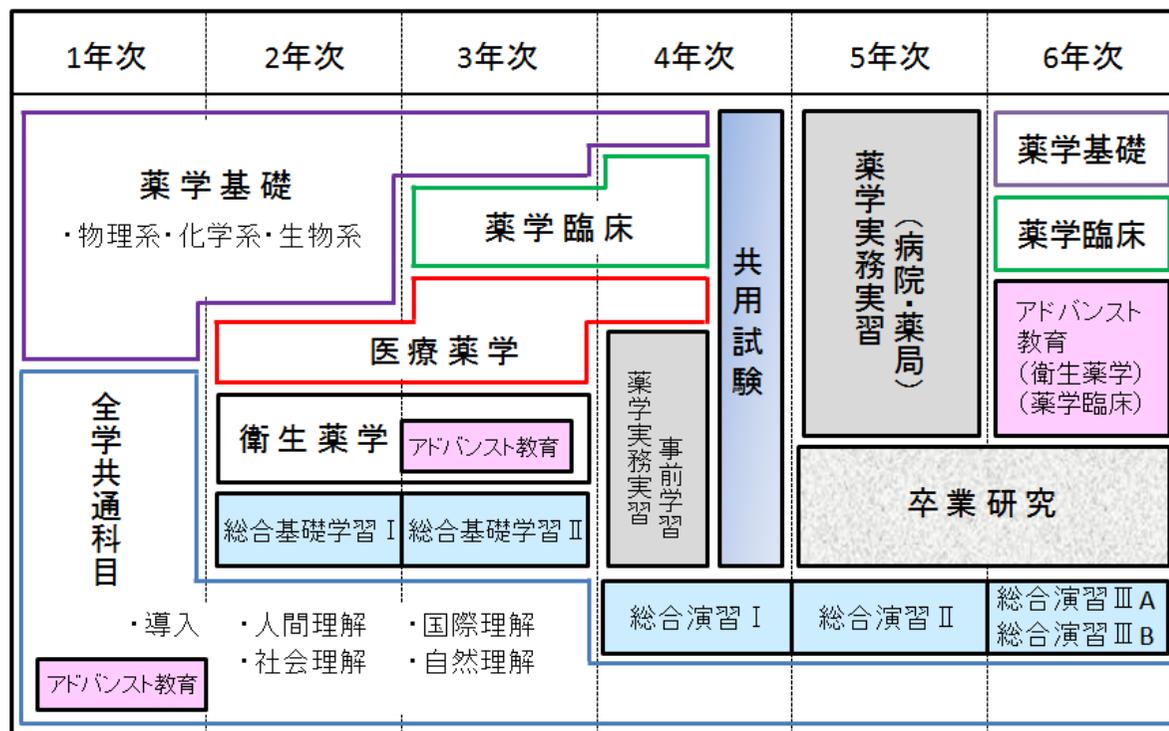
本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

〔全学共通科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/about/features/curriculum.html>

〔薬学科専門科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/course/pharmacy/curriculum/>

<開設授業科目の科目区分配置（概念図）>



(6) 人間社会学研究科 観光学専攻

＜ディプロマ・ポリシー＞

観光学専攻では、次の資質・能力を有すると認められる学生に、「修士（観光学）」の学位を授与します。

- 関心・意欲・態度
観光開発と観光産業の研究に関心をもつことができる。
地域の自然環境や固有の文化を尊重した観光開発や観光産業の推進について、その見識を深めることができる。
- 思考・判断
観光によるまちづくりが、観光客と住民の両者にとって安全・安心な快適空間の実現を目指すべきであることを認知できる。
観光地域の歴史・事象を客観的に分析・考察して、課題解決のための理論と方策を見出すことができる。
- 技能・表現
観光開発と観光産業における企画・経営・管理の能力を身につけ、観光事業やまちづくりの指導的立場で活躍することができる。
ホスピタリティを体得し、良好な対人関係の技能を磨くことができる。
- 知識・理解
観光に関連する人文・社会科学の専門知識を修得している。
観光開発や観光産業の普遍的問題と身近な地域や世界の国々における地域性を理解することができる。

＜カリキュラム・ポリシー＞

観光学専攻では、次の指針にもとづいて科目を設置していますので、学生諸君はその内容を十分に理解した上で履修してください。

- 関心・意欲・態度
「特講」、「事例研究」、「特別研究」の3分類科目の履修により観光開発や観光産業の諸事象を学ぶことができる。
地域の自然や産業・文化などの諸事象を観光活用する意識をもつことができる。
- 思考・判断
観光開発や観光産業のあり方を社会情勢に照らして考えることができる。
観光地域の事象を科学的に分析して課題を導き出し、その対応策を見いだすことができる。
- 技能・表現
観光事業やまちづくりに必要な企画・経営・管理の能力を身につけることができる。
各種観光事業におけるホスピタリティの実践方法を修得できる。
- 知識・理解
観光開発と観光産業に関連する理論と実践の専門的知識を修得することができる。
観光開発や観光産業における普遍性と地域性を理解することができる。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

[観光学専攻科目] <http://www1.niu.ac.jp/graduate/human-and-social-studies/curriculum/>

<履修モデル>

1 年 次		2 年 次	
春季 / 秋季	春季 / 秋季	春季 / 秋季	春季 / 秋季
特講科目 (12)		特講科目 (6)	
	事例研究 (4)		
特別研究 (8)			

注) 1年次の「特講科目」と「事例研究」は、「特別研究」に関わる基盤となる科目を優先して選択し、履修する。()の数字は単位数を示す。

(7) 人間社会学研究科 社会福祉学専攻

<ディプロマ・ポリシー>

社会福祉学専攻では、次の資質・能力を有すると認められる学生に、「修士（社会福祉学）」の学位を授与します。

- 関心・意欲・態度
多様な生活課題を抱える人びとの人権を尊重することができる。
高度な福祉専門職者を目指す意欲と姿勢を有している。
- 思考・判断
多様な生活課題を抱える人びとの自己実現を支援することができる。
変動する地域社会の課題に対応できる。
- 技能・表現
人びとのウェルビーイング実現に向けての社会をデザインできる。
他の関連領域とも連携しうる高度な実践的能力、研究能力を身につけている。
- 知識・理解
人間尊重の理念を基礎とし社会福祉の高度な専門的知識、技術を理解している。

<カリキュラム・ポリシー>

社会福祉学専攻では、次の指針にもとづいて科目を設置していますので、学生諸君はその内容を十分に理解した上で履修してください。

- 関心・意欲・態度
ホスピタリティの体得・実現を通じて、人間的資質を磨くことができる。
社会福祉の実践において、指導的立場で活躍できる。
- 思考・判断
被援助者の生活実態を理解し、真に必要な対人援助を把握できる。
地域社会の多様な課題に対応できる。
- 技能・表現
高度な福祉専門職者として必要な専門的スキルを修得できる。
ニーズに対応した公私協働による多面的サービス供給を理解し支援できる技術を修得できる。
- 知識・理解
高度な福祉専門職者として必要な専門的知識を修得できる。
地域福祉実践をリードしうる知識を修得できる。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

[社会福祉学専攻科目] <http://www1.niu.ac.jp/graduate/human-and-social-studies/curriculum/>

<履修モデル>

1 年 次		2 年 次	
春季 / 秋季	春季 / 秋季	春季 / 秋季	春季 / 秋季
特 講 科 目 (12)		特 講 科 目 (6)	
	事 例 研 究 (4)		
特 別 研 究 (8)			

注) 1年次の「特講科目」と「事例研究」は、「特別研究」に関わる基盤となる科目を優先して選択し、履修する。()の数字は単位数を示す。

(8) 人間社会学研究科 地域マネジメント専攻

<ディプロマ・ポリシー>

地域マネジメント専攻では、次の資質・能力を有すると認められる学生に、「博士（地域マネジメント）」の学位を授与します。

- 関心・意欲・態度
市民の生活の場である地域社会において、安全・安心で豊かなあり方の実現に向けて、行動することができる。
21世紀の新しいまちづくりのリーダーとして活動することができる。
- 思考・判断
地域社会の安全・安心で豊かなあり方にとって、何が必要であるかを考えることができる。
地域マネジメントのあるべき方向性について的確に判断することができる。
- 技能・表現
地域社会のさまざまな場面で、地域マネジメントに必要な企画・立案をすることができる。
理論と実践を体系化して、地域マネジメント活動に実効性のあるサポートを行うことができる。
- 知識・理解
まちづくりの実践・運営・管理に必要な知識を修得している。
地域社会のあり方に資する観光あるいは社会福祉の高度な専門的知識を理解することができる。

<カリキュラム・ポリシー>

地域マネジメント専攻では、次の指針にもとづいて科目を設置していますので、学生諸君はその内容を十分に理解した上で履修してください。

- 関心・意欲・態度
人間尊重の精神に支えられた新たな地域マネジメント理論の構築を目指すことができる。
ホスピタリティの精神にもとづいて安全・安心で豊かな地域づくりのリーダーとなることを目指すことができる。
- 思考・判断
地域マネジメントにおける観光、社会福祉をはじめ、経済・経営、文化、行政の課題について幅広く考えることができる。
観光と社会福祉が「地域政策」「地域開発」「地域計画」を通じて、地域マネジメントにどのような効果を及ぼし得るかを判断することができる。
- 技能・表現
まちづくりを実践・運営し、経営管理していくための高度な専門技術を地域マネジメントの具体的な場面で発揮することができる。
観光と社会福祉の分野におけるホスピタリティの実践によって、高度専門職業人・研究者として活躍することができる。
- 知識・理解
まちづくりの実践・運営と経営管理に関する高度な専門的知識を修得することができる。
観光と社会福祉の高度な専門的知識を、新たな地域マネジメント概念の構築へと統合していくことができる。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

〔地域マネジメント専攻科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/human-and-social-studies/curriculum/>

<標準的な教育研究指導スケジュール>

年次	春季	秋季	教育研究指導	備考
1 年 次	4月	9月	研究計画書の提出 指導教員の決定（主1名、副2名） 特別研究指導Ⅰ開始	研究テーマ（仮）設定 方法論の確立 } この期間に 研究テーマを決定
	8月	2月	先行研究・事例の調査 資料収集 フィールド予備調査	
	12月	6月	研究指導Ⅰレポート提出	
	3月	9月		
2 年 次	4月	9月	特別研究指導Ⅱ開始 フィールド調査	研究仮説の立証・補強
	8月	2月	データ集計・分析	
	11月	6月	第1回中間報告	
	3月	9月	研究指導Ⅱレポート提出	
3 年 次	4月	9月	特別研究指導Ⅲ開始	受理の可否を決定
	8月	2月	第2回中間報告	
	10月	4月	博士論文仮提出 予備審査	
	12月	6月	博士論文提出	
	2月	8月	博士論文公開試問会	
	3月	9月	学位授与	

(9) 健康管理学研究科 健康栄養学専攻

<ディプロマ・ポリシー>

本研究科に2年間在籍し、必要な研究指導を受けたのち、修士論文あるいは特定の課題についての課題研究レポートを提出し、審査会での審査および最終試験に合格することが必要です。さらに、設定された講義・演習科目の所定の単位を取得し、修士課程における幅広い専門的知識と技能を身につけた学生に、「修士（健康管理学）」の学位を授与します。

- 関心・意欲・態度
健康の維持・増進に必要な健康づくりの三要素である「運動・栄養・休養」をもとに、健康管理について必要な幅広い専門的知識を身につけ、かつ関連分野で活躍しうる高度専門職業人としての意欲と姿勢を有している。
- 思考・判断
健康管理に関わる適切な問題解決や適正情報の管理・伝達に必要な知識を有し、高度専門職業人としての態度および行動力を身につけている。
- 技能・表現
教育・研究を通じてホスピタリティを体得し、健康管理に関する高度な実践力を身につけている。
- 知識・理解
健康管理に必要な専門的・包括的な、知識・技能を有する高度専門職業人としての能力を身につけている。

<カリキュラム・ポリシー>

健康管理学研究科では、次の指針にもとづいて科目を設定していますので、学生諸君は、その内容を十分に理解した上で履修してください。

- 関心・意欲・態度
健康管理の分野に関してその現状と将来の発展に対応して、研究分野を「栄養科学」と「健康科学」の2分野に大別し各分野の整合性を図ることにより、健康管理に関する高度な専門的知識を学ぶことができる。
- 思考・判断
特別研究において、研究テーマの設定、実施、分析・考察、結果発表、論文作成などを通して、客観的かつ持続的な研究能力を養うことができる。
- 技能・表現
関連領域の知識を幅広くかつ系統的に活用し、健康管理に関する高度な専門的知識と技能およびプレゼンテーション能力を修得することができる。
- 知識・理解
栄養科学分野では、臨床栄養学、栄養管理学、代謝栄養学、公衆栄養学、栄養教育学、食品衛生学等、健康科学分野においては、地域保健学、栄養疫学、臨床生化学、形態機能学、食環境学、運動生理学、健康免疫科学等を中心とした各研究分野による2年間の一貫教育指導において専門的知識を修得することができる。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

〔健康栄養学専攻科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/health-management/curriculum/>

<履修モデル>

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
講義科目 (8)	講義科目 (6)	講義科目 (2)	
演 習 (4)			
特別研究 (10)			

注) 「講義科目」と「演習」は、「特別研究」に関わる基盤となる科目を優先して選択し、履修する。()の数字は単位数を示す。

(10) 薬学研究科 医療薬学専攻

<ディプロマ・ポリシー>

医療薬学専攻では、次の資質・能力を有すると認められる者に、「博士（薬学）」の学位を授与する。

- 関心・意欲・態度
高度化・複雑化する医療や薬学に関する諸問題に高い関心を持ち、有用で新規な科学的データを見いだそうとする意欲と真摯に取り組む態度を有する。
豊かな教養と人間性および高い倫理観を有する。
- 思考・判断
医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる。
- 技能・表現
進歩を続ける医薬品の品質、安全性及び有効性について十分な科学的根拠を有するデータを創りだすことができ、それを社会に分かりやすく公表することができる。
- 知識・理解
医療や薬学に関する科学論文を理解することができ、その内容について評価する知識と能力を有する。また、研究成果を科学論文にまとめることができる。

<カリキュラム・ポリシー>

医療薬学専攻では、次の指針にもとづいて科目を設置しているので、その内容を十分に理解した上で履修すること。

- 関心・意欲・態度
社会の超高齢化を迎え、疾病の多様化とともに、医療のあり方や薬物療法が多岐に渡ってきている。このような社会背景において、先端の医療や薬学に関心を持ち、社会貢献を目途に、高い倫理観のもとに学問、研究を探究する意欲と態度を醸成する。
- 思考・判断
先端医療や薬学について、先導的医療系薬学研究者（先導的薬剤師）はどうあるべきか、何を修得すべきかを十分に思慮するとともに、現場において活用するための判断能力を身につける必要があり、それに即した講義をもうける。
- 技能・表現
先導的医療系薬学研究者として身につけるべき技能を特別研究で修得するとともに、得られた研究成果を学会発表や論文にまとめ公表していく。
- 知識・理解
医療の現場をはじめ、先導的医療系薬学研究者として活躍する場所で必要不可欠な知識を幅広く涵養するとともに、現場サイドで要求される先端科学データを理解できるようになるための講義をもうける。

<カリキュラム>

本学公式サイト上で以下を公開しています。

○ カリキュラム・シラバス

〔医療薬学専攻科目〕 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/pharmacy/curriculum/>

<標準的な教育研究スケジュール>

年次	期	教育研究スケジュール	備考
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導担当教員（1名）ならびに副研究指導担当教員（2名）の決定 受講する専門科目の履修登録 先行研究の調査 特別研究テーマの確定 →研究指導担当教員への研究計画書の提出 特別研究開始 →研究計画に基づき実験・調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画書提出前に、必要に応じ、全学動物実験委員会および研究等倫理委員会において承認を得る。 研究で得られたデータから導かれた結論の妥当性を議論し、論文作成のための資料整理。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 受講する専門科目の履修登録 特別研究の継続 	
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 受講する専門科目の履修登録 特別研究の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 修了要件に必要な専門科目単位の修得。 研究で得られたデータから導かれた結論の妥当性を議論し、論文作成のための資料整理。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 受講する専門科目の履修登録 特別研究の継続 	
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 受講する専門科目の履修登録 研究進捗報告会 →研究進捗状況報告書の提出 特別研究の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 研究で得られたデータから導かれた結論の妥当性を議論し、論文作成のための資料整理。 投稿論文の執筆
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究の継続 研究データの整理 	
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究の継続 学術雑誌に投稿 	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文の執筆開始と予備審査委員会への提出 学位取得
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 予備審査 博士論文審査請求 本審査 	
学位授与後		<ul style="list-style-type: none"> 3ヶ月以内に博士論文の要旨及び論文審査の結果をインターネットにより公表 1年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表 	

2) 主要科目の特長

(1) 学部

授業科目は、大きく全学共通科目群・学部共通科目群（人間社会学部のみ）・学科専門科目群に分けられます。

全学共通科目

① 導入科目

導入科目として「教養セミナーA・B」を配置し、1年次全員必修としています。社会人としての一般常識、文章処理能力、思考力、コミュニケーション能力、自分自身の考えを公表できるプレゼンテーション能力等を養うことを目的とします。また、「ホスピタリティ概論」は、自校教育について学びます。

② 人間理解科目

人間、文化、芸術についての教養・知識を深める科目（「生命倫理」「芸術論」等）と、生涯を通しての心身の健康保持増進、スポーツの習慣・知識、ボランティア精神を養う科目（「ボランティア論」「スポーツ実習」等）によって構成されます。なかでも「茶道文化」は、学校法人九州文化学園が創立以来その人間教育の柱としてきた茶道とその文化を学ぶ内容として、「茶の心」と教員と学生のふれあいを大切にす少人数教育科目で、1年次から順次履修します。

③ 国際理解科目

社会の国際化が進む中で、人間の相互理解、より良い人間関係の探求を目指すことから、外国語を読み、書き、聞き、話すことのできるコミュニケーション技能を養うための外国語科目（「英語演習」「中国語」等）、日本文化と外国文化を理解し国際感覚を深めるための国際関係科目（「国際関係論」「異文化コミュニケーション論」等）、及び留学生のための日本語・日本理解科目（「日本語入門」「日本理解」等）の3分野で構成されます。

④ 社会理解科目

経済・文化・医療・福祉など社会において担うべき責任について理解し、社会の各領域の成り立ちや諸問題を解明するため、社会科学について学び、課題に挑戦する意欲や課題解決能力を養うための科目（「社会学」「法学」「政治学」「学際連携研究」「地域の理解と連携」等）を開設しています。また、留学生を対象として、「異文化適応演習」「日本事情」を開設しています。

⑤ 自然理解科目

自然科学に関する科目（「基礎の化学」「地球環境論」等）を配置し、自然に関わる諸現象やその法則を明らかにし、自然科学に対する興味を持ち、論理的かつ柔軟な思考力を養います。また、情報処理の知識や技能を身につける科目として「コンピュータ基礎演習」を開設しています。

人間社会学部共通科目

キャリアデザインの意味と重要性を理解し、キャリアプランを立てて、主体的・積極的に就職活動などに取り組むことができるようになるための科目として「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ」を開設し、人間社会学部必修科目としています。

国際観光学科専門科目

① 学科共通科目

観光と国際理解の基礎となる科目（「観光学概論」等）、観光の視点からの国際的な地域研究、観光及びスポーツにおける文化的・歴史的学习の基礎となる科目（「地域観光研究」等）から構成されています。

② コース科目と専門演習等

観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、グローバルツーリズムコースに関する各コースの科目とこれらの専門領域で研究課題を設定して行う「専門演習ⅠA～ⅢB」、「卒業研究」から構成されます。

○ 観光マネジメントコース

観光に関連する産業や経済、地理や歴史、文化や語学などの科目をバランス良く学ぶことで、幅広い視野を持った人材を育成します。特に、日本政府が推進するインバウンド観光（訪日観光）に適応した人材を輩出するために、以下の内容について学修します。

【観光関連産業】

宿泊業、旅行業、リゾート産業、交通業、外食産業などの経営内容や事業展開について学び、これら観光関連産業で活躍できる能力を育成します。

【地域づくり・まちづくり】

地域の自然や歴史、文化や伝統産業などの地域資源を有効に活用した地域づくりの手法を修得します。また、都市計画、リゾート計画、イベント計画などの専門知識を身に付け、まちづくりに参画できる能力を養います。

【言語・異文化理解】

国際交流を効果的に行い、異文化の理解を深めるため、英語をはじめ、中国語や韓国語、日本語などを学修します。こうした学修を通じて、インバウンド観光に適応したコミュニケーション能力を育成します。

これらの学修目標を達成するため、「旅行業務取扱管理者養成課程」、「ホテル経営管理者養成課程」、「博物館学芸員課程」、「日本語教員養成課程」、「公務員・教養課程」の5つの専修課程を設け、いずれか1つに所属することを義務付けています。

○ スポーツツーリズムコース

近年スポーツが多様化（「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」）する中で、本コースでは、教員免許（保健体育）やスポーツリーダー、健康運動実践指導者といった資格を取得し、学校現場や健康関連施設などに就職することを目指しています。また、マリンスポーツやスキー・スノーボード実習にも力を入れ、マリレジャー産業に就職可能な資格も得ることができます。

○ グローバルツーリズムコース

観光の専門知識を持ったグローバル人材を育成します。語学力育成のため、1年次と2年次に集中して英語力をつけるための科目を履修するとともに、二度の海外留学において、国際的な教養と国際感覚を養います。3年次、4年次には、観光の専門科目と英語で行われる専門科目を履修します。英語で行われる授業では、英語圏からの留学生も一緒に学び、留学から帰国後も授業内外で英語を使う環境を維持することができ、コミュニケーション能力を高めることができるプログラムとなっています。

社会福祉学科専門科目

① 基幹科目

社会福祉、相談援助の基本となる理念、歴史・現状、法制を理解し、関心を高めるための科目（「社会福祉発達史」「社会福祉原論」等）、その実践にあたって基礎となる医学や介護学に関する科目（「医学概論」「介護概論」等）、心理学、社会学から得られる知識を修得する科目（「社会の理解」「児童心理学」等）、並びに高齢者、障がい者、児童の福祉、社会保障、公的扶助に関する科目（「高齢者福祉論」「障害者福祉論」等）、相談援助技術の講義、演習、実習科目（「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等）から構成されています。

② 展開科目

今後の社会福祉の展開を図る上での重要性と学生の受験資格・資格取得志望、専門的興味と能力の開発、卒業後の進路に配慮して、地域・行政、医療・精神保健、介護の各分野の科目が配置されています。各分野での重要事項について、現状・あり方、関係する理論・技術、実習などについての理解を深め、実践に役立たせるための科目（「行政法」「精神保健福祉援助演習」「介護実習」等）、並びに特定の研究課題を設定して行う「卒業研究」を配置しています。また、各国家試験合格を目指す「社会福祉総合演習（福祉共通）」「社会福祉総合演習（福祉専門）」「社会福祉総合演習（精神）」「社会福祉総合演習（介護）」を配置しています。

健康栄養学科専門科目

① 基礎科目

管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本的な能力を養うことを基本とし、その職務遂行に必要な知識と技能を修得する基盤となる科目（「健康栄養入門」「公衆衛生学」「解剖生理学」「食品学」「調理学実習」等）を配置しています。

② 基幹科目

管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的な能力を養うこと、チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養うこと、公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力を養うこと、健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を養うことを基本とし、「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の各分野を構成する科目を配置しています。

③ 関連科目

専門科目の中にあって、包括的、基礎的性格を有する科目（「栄養の生物学」「栄養の化学演習」等）と社会が求める特定専門領域の基礎知識を有する実践的管理栄養士の養成を目指す科目（「栄養学専門演習」「管理栄養士演習」等）を配置しています。

薬学科専門科目

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（A. 基本事項、B. 薬学と社会、C. 薬学基礎（物理系、化学系、生物系）、D. 衛生薬学、E. 医療薬学、F. 薬学臨床、G. 薬学研究）に準拠した専門科目に加え、薬剤師としての総合力を修得するために、「総合」を開設しています。また、各分野における科目間の連携を理解した総合力醸成のための「演習」科目を各分野に適宜配置しています。

(2) 大学院

授業科目は、各専攻の教育研究分野に応じて配置されています。

観光学専攻専門科目

観光開発分野（「観光自然資源特講」「芸術文化資源特講」等）と観光産業分野（「観光経済特講」「宿泊業特講」等）、加えて、両分野に関わる共通の課題である観光の大衆化に起因する環境、資源、文化の破壊に対して倫理的に取り組む観光倫理に関する科目（「観光倫理特講」等）を配置しています。

〔観光開発〕 自然環境と資源、芸術文化、民俗文化に配慮した観光開発の教育研究を行うとともに、観光開発の実務に関わる教育研究を行います。

〔観光産業〕 経済学と経営学の成果を生かす観光産業の教育研究を行うとともに、観光産業の実務に関わる教育研究を行います。

社会福祉学専攻専門科目

福祉行政・計画分野（「福祉政策経営特講」「地域福祉計画特講」等）と福祉臨床分野（「精神保健特講」「介護福祉特講」等）、加えて、両分野の教育研究の共通基盤をなす人権思想と社会福祉史に関する科目（「人権思想・社会福祉史特講」等）を配置しています。

〔福祉行政・計画〕 平成12年6月に制定された社会福祉法を念頭に、21世紀のわが国福祉行政の動向を視野に入れつつ、特に、特定の個別福祉行政分野や地域における福祉政策の展開、地域福祉や地域医療・保健の計画的な展開について、その理論と実践のあるべき方向性を研究します。

〔福祉臨床〕 具体的な福祉ニーズを持つクライアントに対して、援助方法等についての高度な専門性を有するスーパーバイザーとしてソーシャルワーカーの役割を果たし得るように、その理論と実践を深める研究を行います。

地域マネジメント専攻専門科目

観光事業と社会福祉を二本柱とした地域マネジメントの分野に関して、その現状と今後予想される将来の発展・需要の観点から重要と判断される教育・研究課題に対応するよう配慮した科目（コア：「地域マネジメント論特別演習」「地域マネジメント研究方法」、思想：「観光倫理思想特別演習」「社会福祉思想特別演習」、地域：「地域観光開発特別演習」「地域福祉政策特別演習」等、応用：「観光事業特別演習」「福祉と医療特別演習」等）を配置しています。

健康栄養学専攻専門科目

健康科学分野（「健康科学特論」「健康免疫科学特論」等）と栄養科学分野（「栄養科学特論」「食生活科学特論」等）に関する科目を配置しています。

〔健康科学〕 地域保健、検査医学、健康科学を取り上げ、健康の維持・増進並びに生活習慣病の改善・予防についての基礎的理論と実践技術に関わる教育・研究を行うとともに、これらに加えて各分野の教育・研究の共通基盤となる栄養疫学についても教育・研究を行います。

〔栄養科学〕 臨床栄養、公衆栄養、栄養教育、食品衛生を主として取り上げ、栄養学に基づく応用性の高い教育・研究を行うとともに、地域医療、栄養行政、食品開発・品質管理及び栄養学的知識の普及・啓蒙の実務に関わる教育・研究を行います。

医療薬学専攻専門科目

医療薬学、社会薬学、育薬学を機軸に、医療社会薬学講座（「ファーマコメトリクス特論」「レギュラトリーサイエンス特論」等）、薬物治療設計学講座（「処方設計学特論」「最先端医薬品学特論」等）、予防薬学講座（「衛生予防薬学特論」「感染制御学特論」等）、医療基盤薬学講座（「標的タンパク質と活性化剤及び阻害剤学特論」「医療分子機能科学特論」等）の4つの大講座に関する科目を配置しています。

3) 科目ごとの目標等

本学公式サイト上で以下を公開しています。

- カリキュラム
- シラバス

(1) 学部

[全学共通科目] <http://www1.niu.ac.jp/about/features/curriculum.html>

【トップページ】 > 【大学総合】 > 【学びの特色】 > 【全学共通カリキュラム】 > 【全学共通科目シラバス】 > 【(各科目名)】

[専門科目]

【トップページ】 > 【学部学科】 > 【(各学科)】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各学科専門科目シラバス)】 > 【(各科目名)】

- 国際観光学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/international-tourism/curriculum/>
- 社会福祉学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/social-welfare/curriculum/>
- 健康栄養学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/health-nutrition/curriculum/>
- 薬学科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/course/pharmacy/curriculum/>

[教職科目] <http://www1.niu.ac.jp/course/teacher-training/curriculum.html>

【トップページ】 > 【学部学科】 > 【教職課程】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各科目名)】

(2) 大学院

[専門科目]

【トップページ】 > 【大学院】 > 【(各研究科)】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各研究科専門科目シラバス)】 > 【(各科目名)】

- 人間社会学研究科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/human-and-social-studies/curriculum/>
- 健康管理学研究科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/health-management/curriculum/>
- 薬学研究科専門科目 <http://www1.niu.ac.jp/graduate/pharmacy/curriculum/>

[教職科目] <http://www1.niu.ac.jp/graduate/teacher-training/curriculum.html>

【トップページ】 > 【大学院】 > 【教職課程】 > 【カリキュラム・シラバス】 > 【(各科目名)】